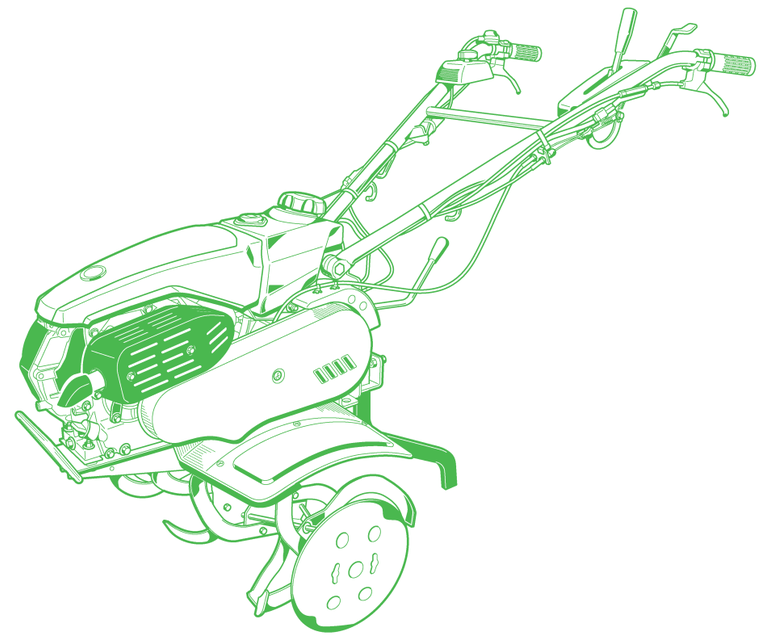
MM400

管理機

取扱説明書

MM400



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

LEMA
陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関協会排出ガス自主規制適合エンジン」であることを示しています。

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

STOP	エンジン停止		チョークレバー
			ガソリン燃料

専門用語の説明

O	燃料コックレバー［開］	C	燃料コックレバー［閉］

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の商品名(区分)と機械番号(製造番号)は…？

商 品 名(区　　分)

機械番号(製造番号)

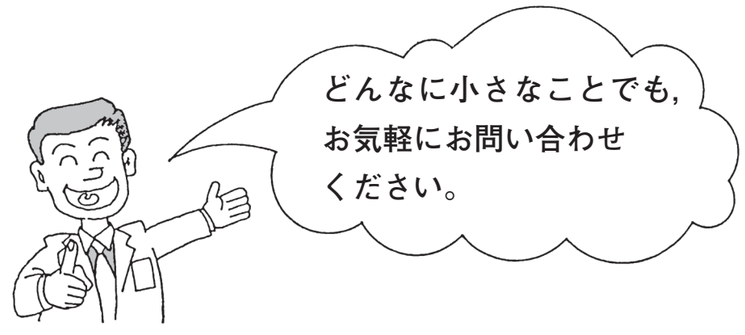
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)

MM400
BD．A．2-2．0．AK

はじめに

このたびは三菱マヒンドラ農機製品をお買上げいただきありがとうございました。この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について　本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。
使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

- 操向クラッチレバー付 ····· S 仕様
- ナタ爪ロータ・抵抗棒付 ····· C 仕様
- 草削ロータ仕様 ····· J 仕様

その他について

商標について

商　標	商標権者について
AdBlue®	AdBlue はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。
QR コード	QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。本文中では、それらの名称には必ずしも商標表示（™、®）を付記していません。

目次

安全に作業をするために 3

サービスと保証 13

ご相談窓口 13
認定番号 13
補修用部品の供給年限について 13

各部の名称と装置の取扱い 14

管理機の外観 14
主クラッチレバー 15
フィンガーレバー 15
メインスイッチ 15
スロットルレバー 16
主変速レバー 16
操向クラッチレバー［S 仕様］ 16
ハンドル高さ調節ノブ 17
リコイルスタータ 17
チョークレバー 17
燃料コックレバー 17
クイックドレン 17
燃料タンクと燃料キャップ 18
マフラ 18
延長フェンダ 18
ユニバーサルヒッチ 19
抵抗棒［C 仕様、別売 OP（スターロータ)］ 19
ナタ爪ロータ［C 仕様］ 19
スターロータ（別売 OP） 19
ナタ爪用移動輪（別売 OP)、スターロータ用移動輪（別売 OP） 19
エアクリーナ 20
ロープ掛け用フック 20

作業前の点検 21

調子よく作業するために 21
安全に作業するために 22

運転のしかた 24

新車時の扱いかた 24
1. 管理機の準備 24
2. ならし運転（最初の 10 時間まで） 24
運転前の点検 24
1. 運転前の日常点検 24
エンジンの始動と停止のしかた 24
1. 始動のしかた 24
1.1 リコイル始動のしかた 24
2. 停止のしかた 25
発進のしかた 26

作業のしかた 28

上手な作業のしかた 28
1. 作業前の準備 28
2. 耕うん作業手順 28
2.1 耕うん作業手順 28
2.1.1 機体が深くもぐって前に進まないとき 28
2.1.2 旋回のしかた 28
各部の調節 29
1. ハンドル高さの調節 29

2. ユニバーサルヒッチ、抵抗棒の組付けかた 29
2.1 ユニバーサルヒッチの組付けかた 29
2.2 抵抗棒の組付けかた［C 仕様、別売 OP（スターロータ)］ 30
ロータ部の各種部品のセットのしかた 30
1. スターロータのセットのしかた（別売 OP） 30
2. マジカルプレートの装着方法 31
3. ナタ爪ロータのセットのしかた［C 仕様］ 31
4. ナタ爪用移動輪（別売 OP)、スターロータ用移動輪（別売 OP）の取付けかた 32
管理機の点検・整備のしかた 33
廃棄物の処理について 33
洗車時の注意 33
定期点検箇所一覧表 34
管理機の給油一覧表 35
日常点検 36
1. 前回の異常箇所 36
2. 機械の周りを歩いて 36
3. 燃料の給油 36
4. エンジンオイルの交換 36
5. ミッションオイルの交換 37
6. エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換 37
7. 燃料チューブの交換 38
8. 燃料フィルタとタンクの清掃 38
9. ファンカバーの清掃 39
10. 点火プラグの調節、清掃、交換 39
11. 主クラッチケーブルの調節 40
12. 操向クラッチケーブルの調節［S 仕様］ 41
13. 後進リターンケーブルの調整 41
14. スロットルレバーの点検 41
使用後の手入れ 41
1. エンジン始動不良を防ぐために 41
2. 長期格納時の手入れ 41
3. 燃料の抜取り 42
4. QR コードについて 42
管理機を運搬するとき 43
自動車（トラック）への積込み、運搬 43
付表 44
主要諸元 44
標準付属部品 45
主な消耗部品一覧表 45
トラブルと処置 46
索引 47

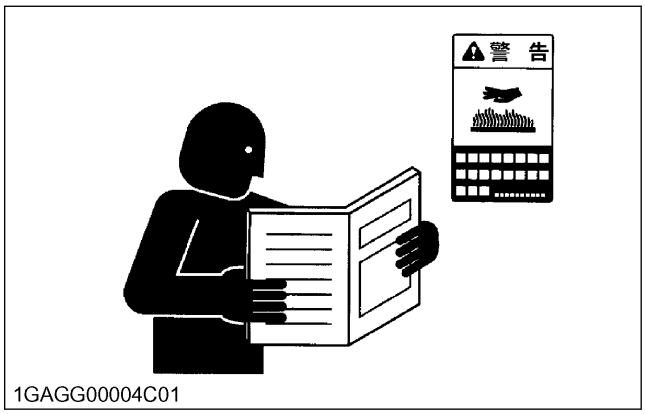
安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、必ず本書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は次のとおりですが、これ以外にも、本文の中で危険・警告・注意・重要・補足としてそのつど取り上げています。

管理機を使用する前の注意事項

1. 正しい運転方法

- 機械を動かす前に、取扱説明書と機械に貼ってある安全ラベルをよく読み、理解したうえで運転してください。
- 機械の運転操作、特に主クラッチの**[切]**は素早くできるよう、よく練習し、じゅうぶんに慣れてから作業してください。



1GAGG00004C01

2. 運転してはいけない人

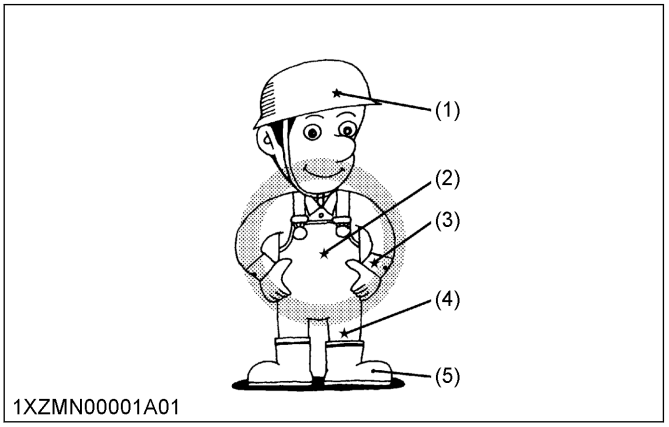
次の項目に該当する場合は、機械を使用しないでください。

- 本書および安全ラベルの内容が理解できない人
- 視力不足などのため表示内容が読めない人
- 飲酒時や体調が悪いとき、また妊娠中の人
- 16 才未満の人
- ハンドルを操縦する体力に自信のない方

3. 作業に適した服装

- だぶついた服、腰タオルなど、回転部分や操縦装置に引っ掛かり事故の原因になるような服装はやめてください。
- ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などの保護具を必要により着用してください。

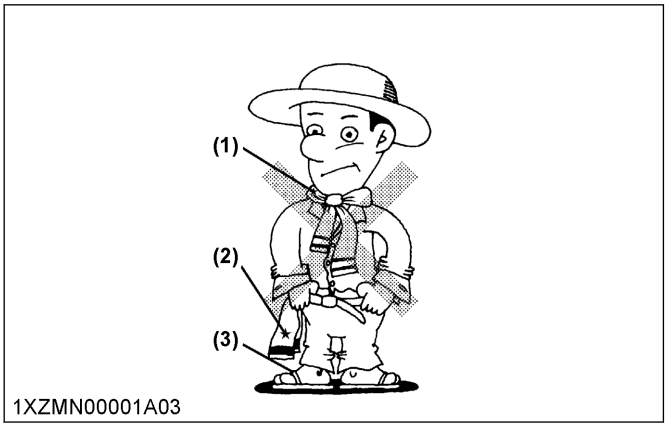
作業時の服装（良い例）



1XZMN00001A01

(1) ヘルメット
(2) 活動的な服装
(3) 袖口きっちり
(4) スソきっちり
(5) 滑りにくい靴

作業時の服装（悪い例）



1XZMN00001A03

(1) 巻きタオル
(2) 腰タオル
(3) サンダル

4. 周囲への注意

- 子供、ペットを近づけないでください。
- 見物人を近くに寄せないでください。
- 共同作業者が居るときは、互いに注意してください。

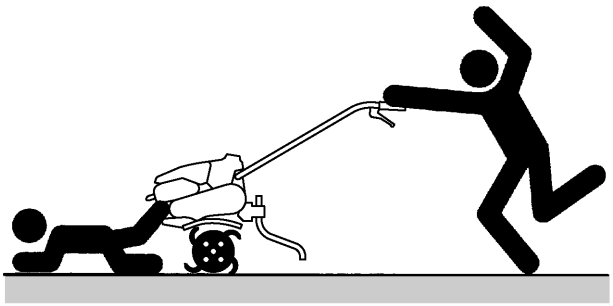
5. 他人に貸すときの注意

- 事前に運転のしかたを教え、“取扱説明書”を必ず読んでもらってください。
- 本書および安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

⚠ 安全に作業をするために



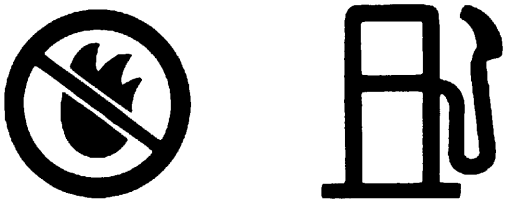
1NQQB00005A01



1TFKD00003A01

6. 給油および注油するとき（火気厳禁）

- 燃料の給油および各部への注油時は必ずエンジンを停止し、規定量以上入れないでください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。
- 煙草を吸ったり火気を近づけないでください。
- 給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れないでください。
- 燃料補給後、給油キャップは漏れないようしっかり締めてください。
- こぼれた燃料は拭き取ってください。



1ALKT00004A01

始動時の注意事項

1. エンジンを回すとき

- 必ず本機の主クラッチレバーを**[切]**位置にし、主変速レバーを**[中立]**位置にして、付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし主クラッチが入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になるおそれがあります。
- リコイルスタータを引っ張る方向に人が居ないか、突起物や障害物が無いか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。

2. 排ガスに注意

- 換気が不十分な所では、暖機運転や作業はしないでください。
  排ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- ハウス内では排ガスが充満しないように、じゅうぶんに換気を行ってください。
  排ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

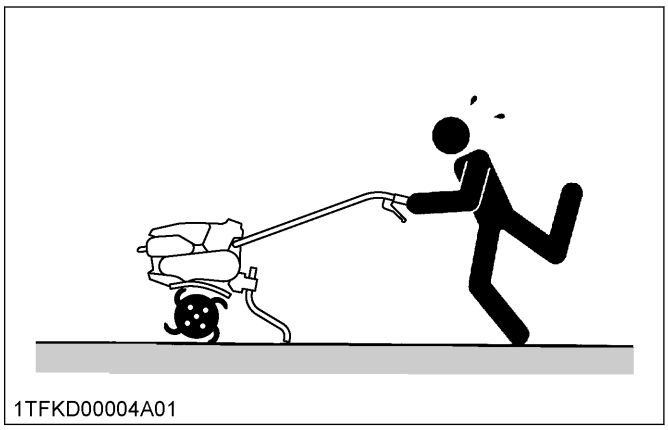


1GAGG00009A01

移動、作業時の注意事項

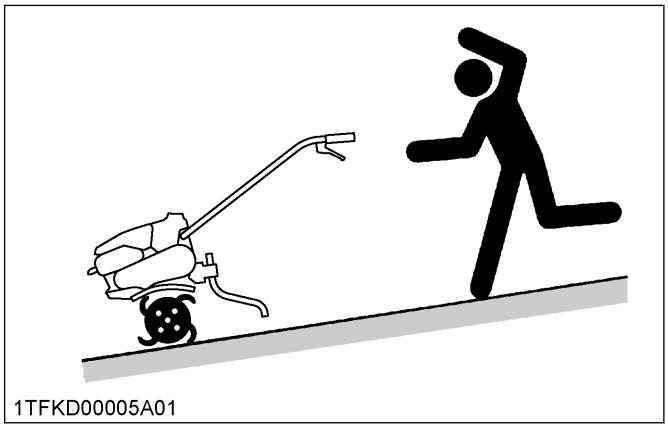
1. 発進するとき

- 速い速度での走行はじゅうぶん注意してください。
- 車速の最低速で主クラッチレバーの**[入]**はゆっくり、**[切]**は素早くの操作を習熟したうえで使用してください。
- 小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回はしないでください。転倒などのおそれがあります。
- 後進の発進時は、ハンドルが持ち上がりやすいので、エンジンの回転を下げ、しっかりハンドルを押さえながらゆっくり主クラッチを入れてください。

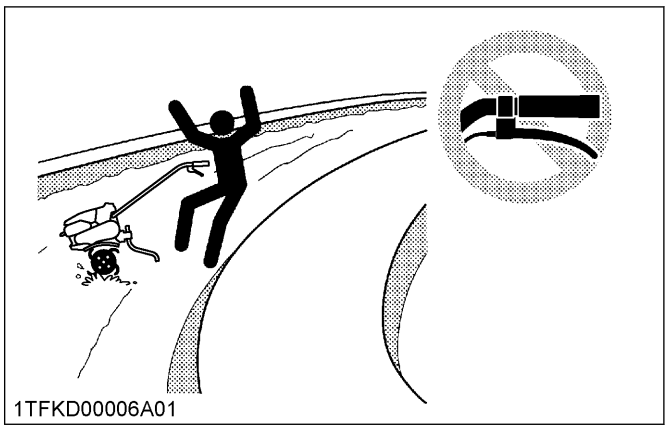

1TFKD00004A01

2. 坂道を移動するとき

- 坂道、ほ場の出入り、あぜの乗越えなどの途中で主クラッチレバーを**[切]**位置にしたり、主変速レバーを**[中立]**位置にすると、機体が思わぬ方向に進み危険です。
- 変速操作は、機械が平たんな場所以外では行わないでください。落下や転倒のおそれがあります。
- 坂道や凹凸、カーブの多い路上で高速運転すると、転倒したりして危険ですので必ず低速運転してください。

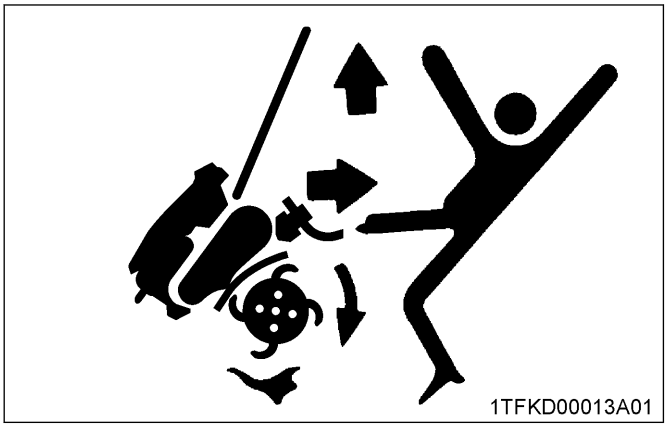

1TFKD00005A01

- 坂道で操向クラッチレバー［S 仕様］を操作すると、思わぬ方向に曲がり転倒のおそれがありますので、必ずハンドル操作で方向転換してください。


1TFKD00006A01

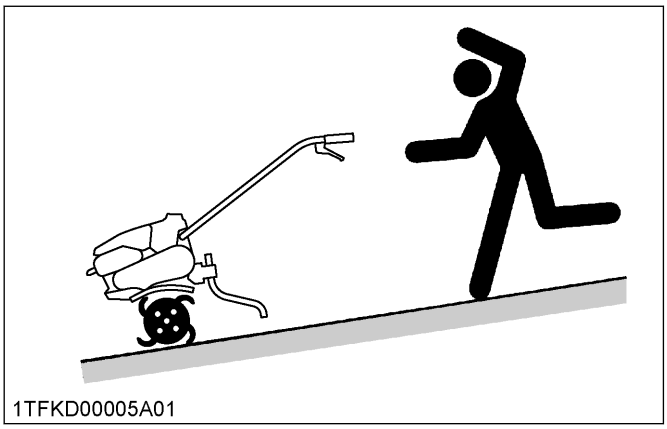
3. 後進するとき

- ハンドルが跳ね上がり回転する爪に巻き込まれるおそれがあるので**[後進]**は、じゅうぶん注意してください。


1TFKD00013A01

4. 傾斜地やあぜの移動をするとき

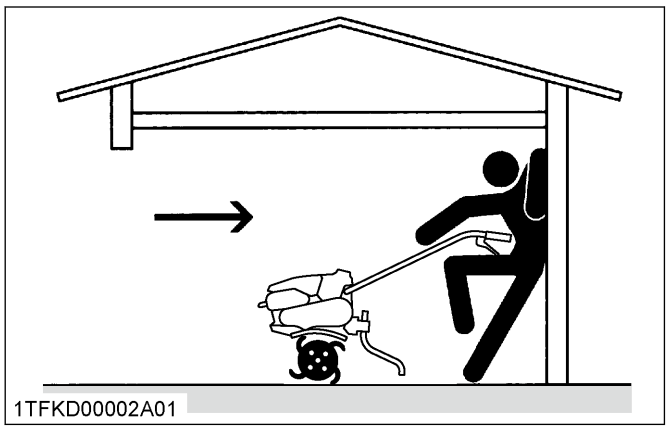
- 傾斜地で作業する場合は、転倒やスリップをしないようにバランスにじゅうぶん注意してください。


1TFKD00005A01

- あぜを横断するときは、いったん停止して、あぜと直角に走行してください。
- あぜの高さが爪軸の高さを越えるほ場の出入りでは特に、作業者ご自身が滑ったりしないように足場をじゅうぶん確認しながら移動してください。
- 前後進操作は、機械が平たんな場所以外では行わないでください。落下や転倒のおそれがあります。

5. ハウス、車庫などでの移動

- 機械と後方の壁、支柱、天井など障害物の間にはさまれるおそれがあるので後方に機械を移動するときは障害物が無いことを確認してください。



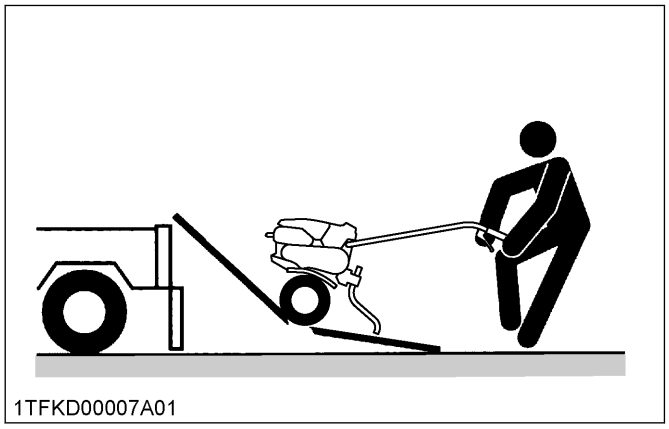
- 屋根の低いハウス内や車の荷台では、メインスイッチを**[停止]**位置にして手で引き出してください。

6. 運搬や積降ろしするとき

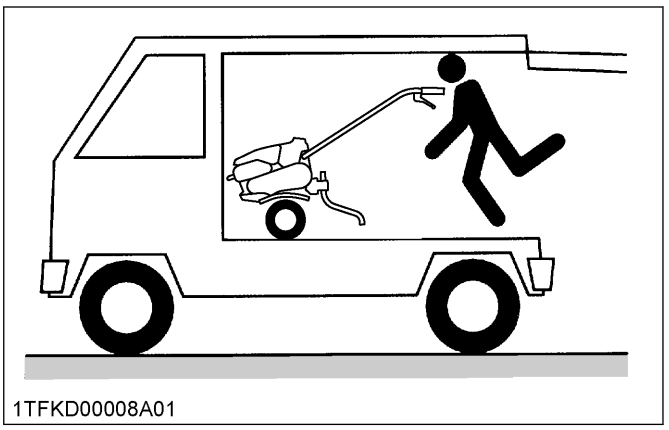
- 積込みや積降ろしは、平たんで交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。

アユミ板を使用する場合

- アユミ板はすべり止めのついた、機体重量に耐える物で、トラックの荷台の高さ 1 に対しアユミ板の長さ 4 以上の物を使用し、確実に固定してください。
- 積込み・積降ろし作業中は、機械の前には絶対に立たないでください。
- ロータを装着しているときは、移動輪、または突起の小さい車輪と交換して行ってください。ロータのみでの、アユミ板の上り・下りは危険です。絶対にしないでください。



- 足元に注意し、車速は最低速で、上りは**[前進 1 速]** 下りは**[後進]**で行い、途中で主クラッチ・操向クラッチ［S 仕様］を切ったり、変速操作をしないでください。落下や転倒のおそれがあります。
- 車などで運搬するときは、荷台に天井がある車を使用すると天井に首や体をはさまれるおそれがありますので、必ず荷台に天井が無い車を使用してください。



運搬するとき

- 運搬時は燃料コックレバーを必ず“閉”（**[C]**位置）にし、給油キャップは漏れないようしっかり締めてください。燃料漏れが発生し、火災や爆発のおそれがあります。
- 機体の固定は前部プロテクタ、ロープ掛け用フックの 2 か所を使ってロープ掛けを行い、確実に床に固定してください。

7. 耕うん作業するとき

- いつでも主クラッチが切れる姿勢で運転してください。車軸（ロータ）作業開始時や作業中、機体が思わぬ方向に飛出し転倒や人身事故のおそれがあります。

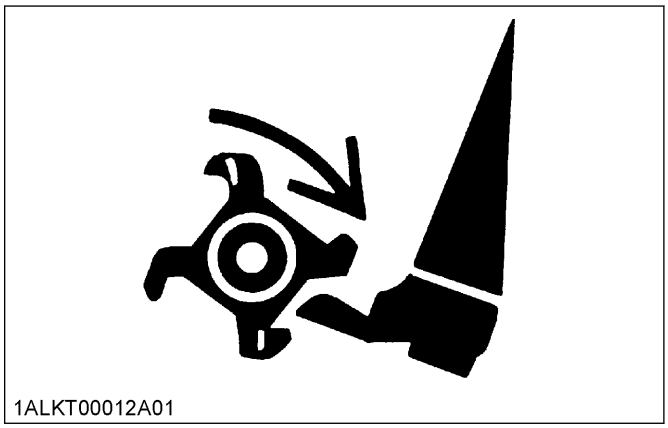


- 作業前に、ほ場の状態をよく確認して、石・材木・針金・空カン・空ビンなどを取り除いてください。
- 作業前、作業後には機械の整備・点検を行ってください。特にエンジン本体、マフラ周辺、配線部にワラくずなどがたまっていると、火災の原因になります。
- 周辺の枯れ草やたい積ワラなどは作業前に取り除くか移動させてください。機械のマフラが接触すると、発火するおそれがあります。
- ほ場の中や周囲にある支柱、樹木や段差などは、作業前に位置を確認し、後進時にはさまれたり、転倒・転落しないよう安全な距離を保って、近づかないよう作業してください。
- ハウスや小屋の中、果樹園など障害物がある場所では、周囲をよく確認しながら作業してください。特

に後進、旋回するときは、エンジン回転を下げ、ハンドルをしっかり押さえて行ってください。
- 長いワラ・草など作業に支障のある物は、作業前に取り除いてください。機体が思わぬ方向に飛出し、転倒などのおそれがあります。

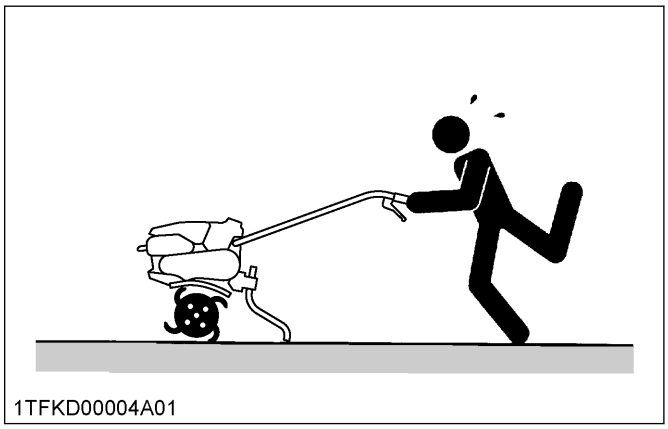
8. 回転している爪に注意

- ハンドル部を持ち上げ旋回するとき、足元および周囲にじゅうぶん注意してください。回転する爪に巻き込まれるおそれがあります。


1ALKT00012A01

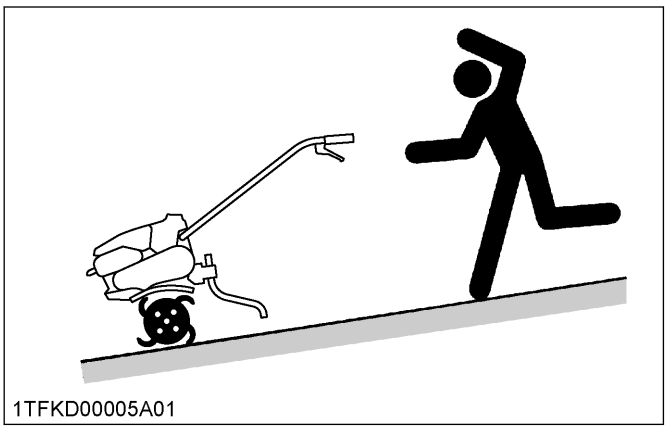
9. ほ場がかたいとき

- かたいほ場では車速を遅めにして、耕深も浅めで作業を行ってください。機体が飛び出すおそれがあります。


1TFKD00004A01

10. 機械から離れるとき

- エンジンは必ず停止させ、平たんで安定した場所に停車してください。移動や落下するおそれがあります。
  やむなく傾斜地に停めるときは車止めをしてください。

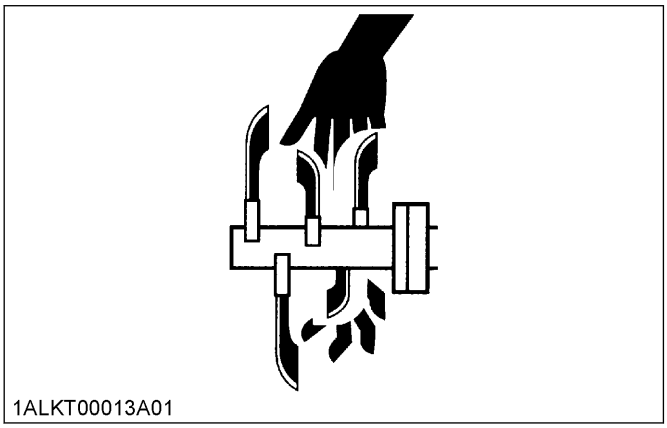

1TFKD00005A01

- 周囲に草やワラなど燃えやすい物がある場所に停めないでください。火災のおそれがあります。

作業が終わったとき

1. 掃除をするとき

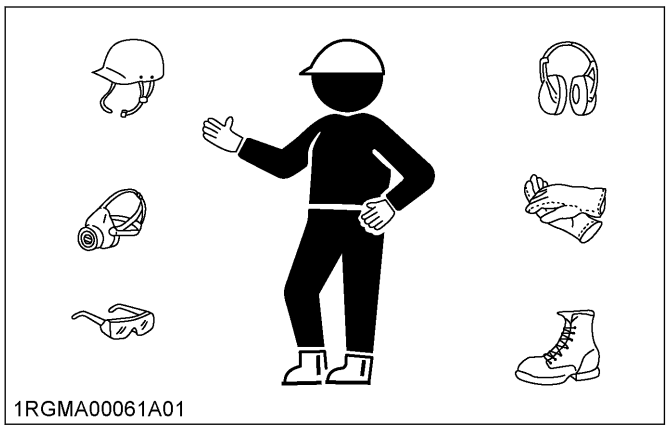
- 車軸（ロータ）などに巻付いた草・ワラ・泥土などを取り除くときは、巻き込まれるおそれがあるので、必ずエンジンを停止してください。


1ALKT00013A01

点検整備時の注意事項

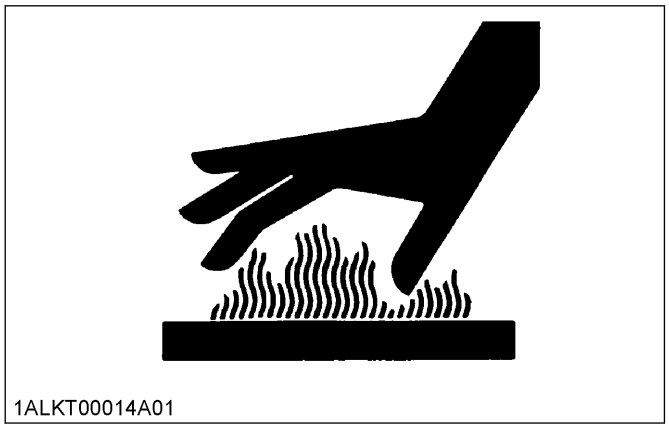
1. 点検、整備時の服装と保護具

- 点検整備にはヘルメット、安全靴と安全な服装を着用してください。
  作業内容によっては保護めがね、防じんマスク、防音具、保護手袋などの保護具を着用してください。
  各保護具は使用前に機能を確認してください。


1RGMA00061A01

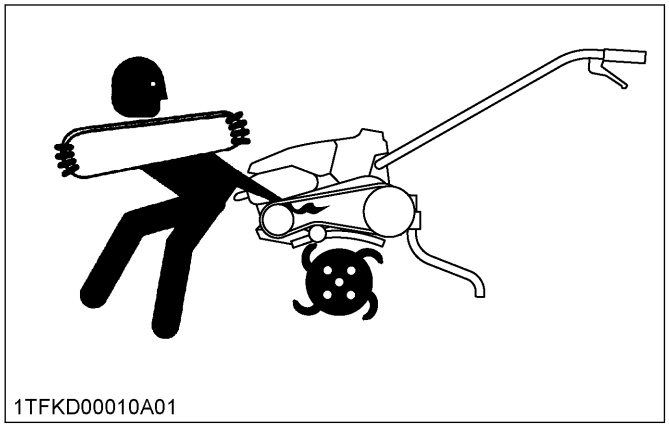
2. 点検、整備、アタッチメント脱着時の注意

- 点検、整備、アタッチメントの脱着などは、機械が転倒しない平たんな所に機械を安定させて、エンジンを止め、高温部が冷めてから行ってください。


1ALKT00014A01

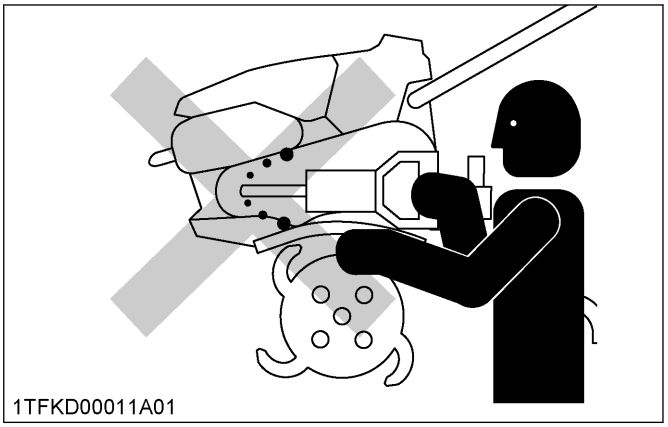
3. カバー類は必ずつける

- ベルトカバーなどの防護カバーを取り外すときは、必ずエンジンを停止してください。巻き込まれるおそれがあります。
- 取り外したカバー類は元どおり組み付けてください。


1TFKD00010A01

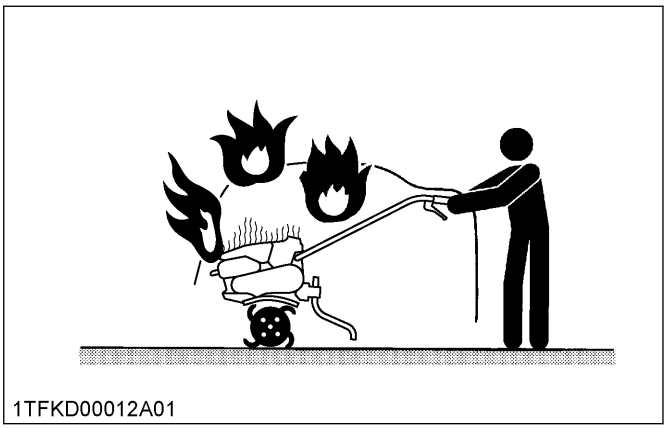
4. 機械の改造禁止

- 機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。


1TFKD00011A01

5. 格納するとき

- 機体に保管用カバーやシートをかけるときは、火災予防のため、高温部が冷めてから行ってください。


1TFKD00012A01

- 乾いた草やワラなど可燃物のある所での保管はしないでください。
  火災のおそれがあります。

6. 廃棄物の処理

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
  - 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
  - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
  - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水（AdBlue）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。



1RGER00028A01

7. 夜間作業の禁止について

- 本機は夜間作業灯を装備していませんので、夜間作業はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

8. 作業機の着脱について

- 作業機の着脱は、平たんで安全な場所で行ってください。傷害事故のおそれがあります。

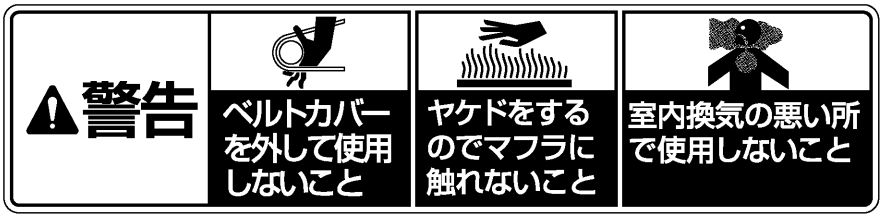


1ALKT00012A01

安全に作業するための安全ラベル

1. 安全ラベルと貼付け位置

(1) 品番 91880000100

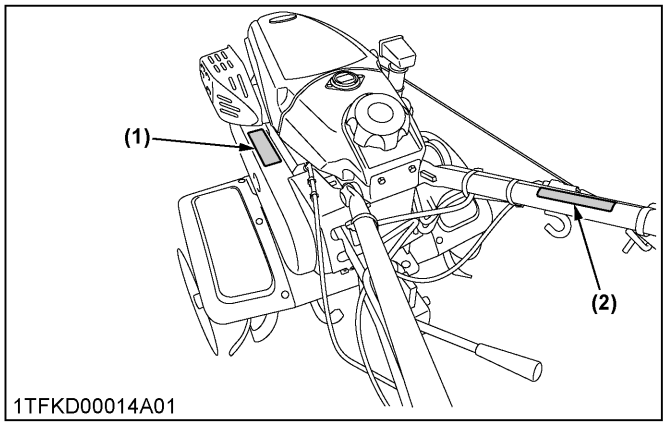


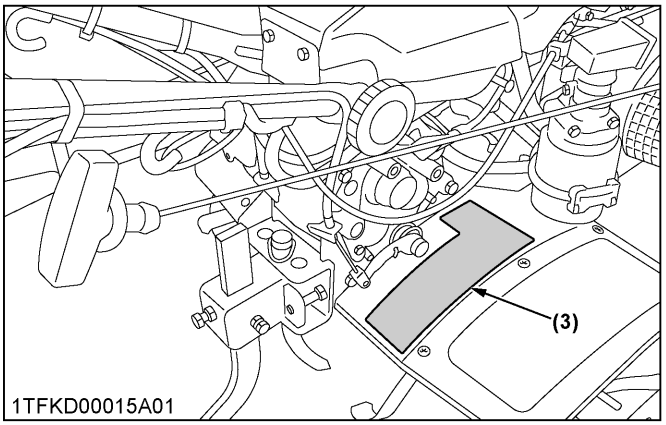
(2) 品番 91880000180



(3) 品番 91880000190







1TCGZ00006A01jaJP

2. 安全ラベルの手入れ

- 安全ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
  もし安全ラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接、安全ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼り替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

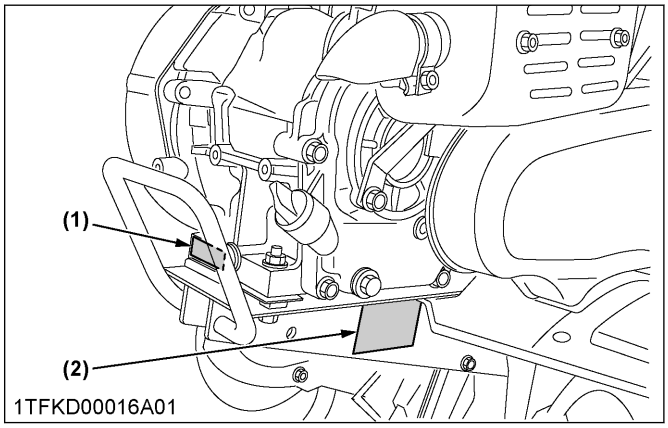
⚠ 警告

- **機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故にもつながるおそれがあります。**
  改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。
- **トレーラ走行はできません。**
  小型特殊自動車の認定を受けておりません。
  公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
  公道を移動するときは、自動車（トラック）に積んで運搬してください。

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれご相談窓口を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際、次の事項を併せてご連絡ください。

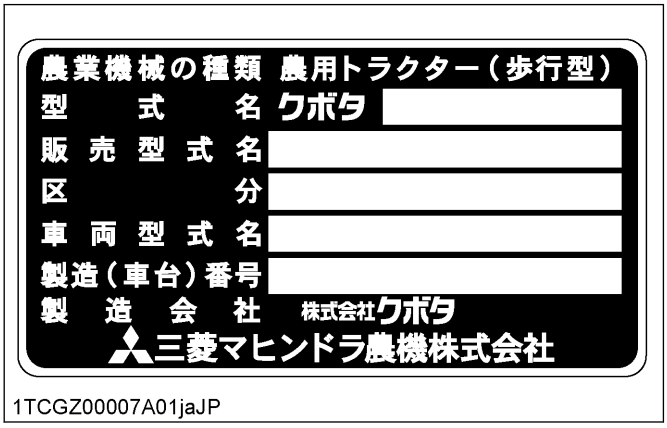
- 型式名、販売型式名と製造番号
- エンジン番号

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



(1) エンジン番号
(2) 製造（車台）番号

銘板



認定番号

安全性検査の農機型式名および番号が必要な場合は、次の型式名および番号をご使用ください。

販売型式名	農機型式名	安全性検査合格番号
MM400	TMS400	申請中

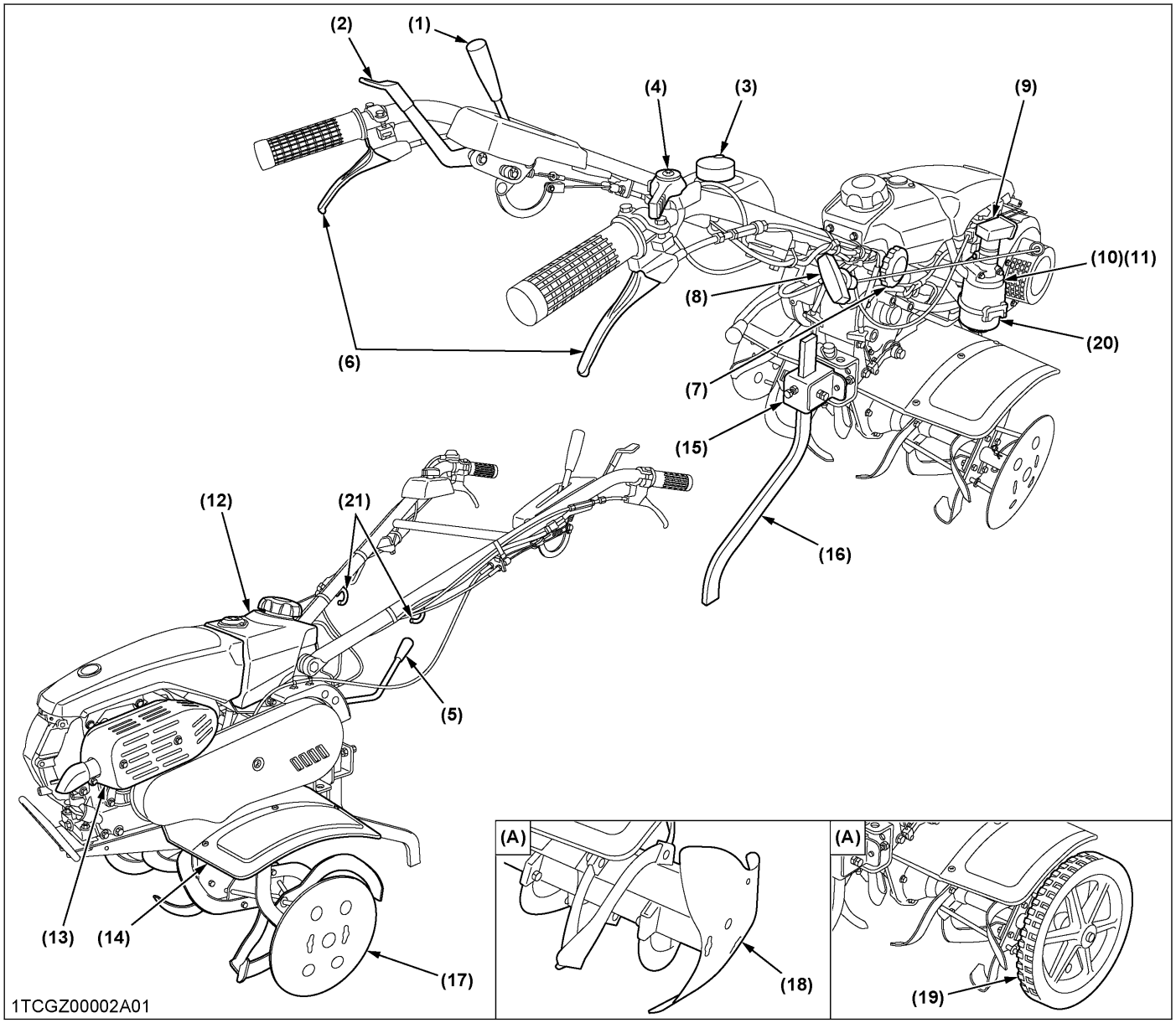
補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 9 年といたします。ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などの条件についてご相談させていただく場合があります。
補修用部品の供給は原則的に既述の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称と装置の取扱い

管理機の外観

この項目では各部の名称と装置の取扱いを説明しています。

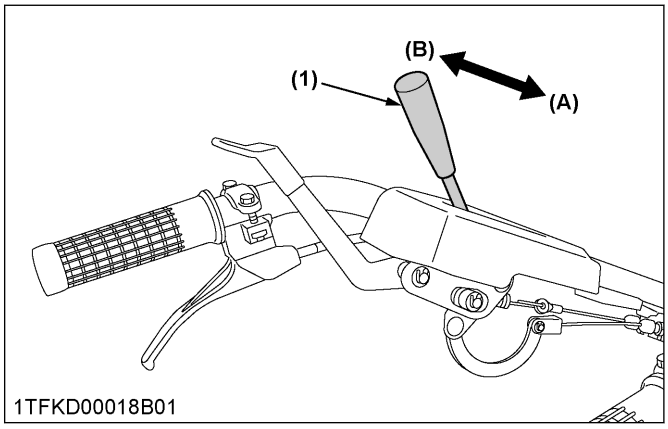


(1) 主クラッチレバー *15*
(2) フィンガーレバー *15*
(3) メインスイッチ *15*
(4) スロットルレバー *16*
(5) 主変速レバー *16*
(6) 操向クラッチレバー［*S* 仕様］ *16*
(7) ハンドル高さ調節ノブ *17*
(8) リコイルスタータ *17*
(9) チョークレバー *17*
(10) 燃料コックレバー *17*
(11) クイックドレン *17*
(12) 燃料タンクと燃料キャップ *18*
(13) マフラ *18*
(14) 延長フェンダ *18*
(15) ユニバーサルヒッチ *19*
(16) 抵抗棒［*C* 仕様、別売 *OP*（スターロータ）］ *19*
(17) ナタ爪ロータ［*C* 仕様］ *19*
(18) スターロータ（別売 *OP*） *19*
(19) ナタ爪用移動輪（別売 *OP*）、スターロータ用移動輪（別売 *OP*） *19*
(20) エアクリーナ *20*
(21) ロープ掛け用フック *20*
(A) 別売 *OP*

主クラッチレバー

警告
- **傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり危険な場合がありますので、主クラッチレバーをゆっくり操作してください。**
- **狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし、後方や上方などまわりの安全を確かめ、ゆっくりと主クラッチレバー操作してください。**

主クラッチレバーは、エンジンからの動力を断続します。
- 主クラッチレバーを**[入]**位置にするとクラッチが入ります。
- 主クラッチレバーを**[切]**位置にするとクラッチが切れます。

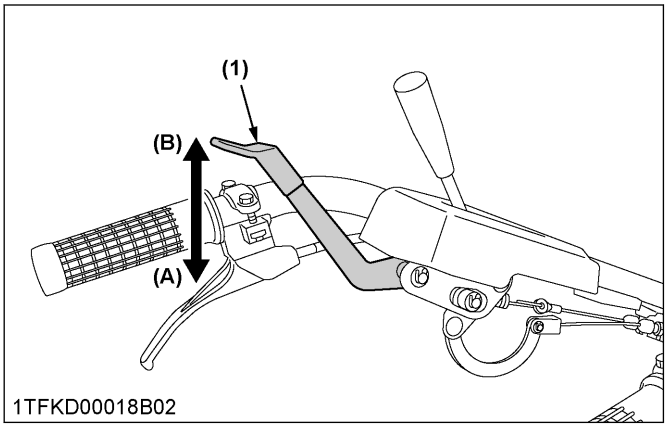


(1) 主クラッチレバー　*(A)* ***[入]***位置　*(B)* ***[切]***位置

補足：
- **主クラッチレバーとフィンガーレバーは連動していますので、どちらでも主クラッチ操作ができます。**
- **主変速レバーを[後進]に入れた場合、主クラッチレバーから手を離すと主クラッチレバーが[切]位置に戻ります。**

フィンガーレバー

フィンガーレバーは、エンジンからの動力を断続します。
主クラッチレバーとフィンガーレバーは連動しているので、どちらでも主クラッチ操作ができます。
- フィンガーレバーを押し下げると、クラッチが入ります。
- フィンガーレバーを押し上げると、クラッチが切れます。



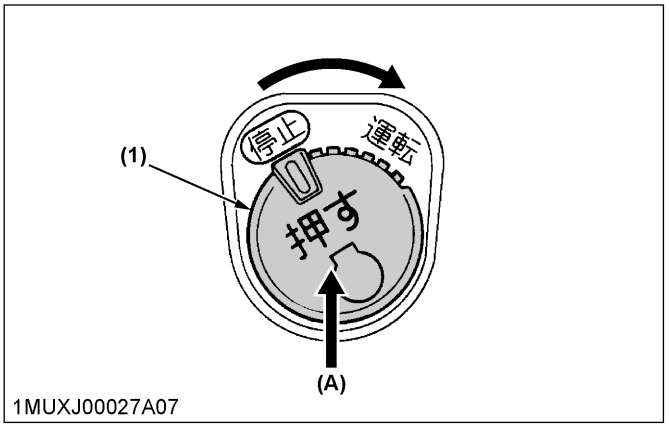
(1) フィンガーレバー　*(A)* ***[入]***位置　*(B)* ***[切]***位置

メインスイッチ

メインスイッチは、エンジンの運転または停止に使用します。
- メインスイッチを押しながら**[運転]**位置に回すと、エンジンの始動が可能になります。
  エンジンの始動はリコイルスタータで行います。
- メインスイッチを押すと左に回って**[停止]**位置に戻り、エンジンが停止します。

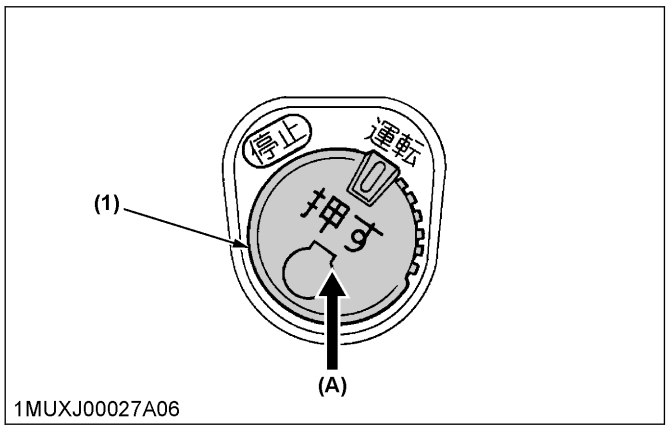
補足：
- **非常時はメインスイッチを押してください。エンジンが停止します。**

運転時



(1) メインスイッチ　*(A)* 押しながら回す

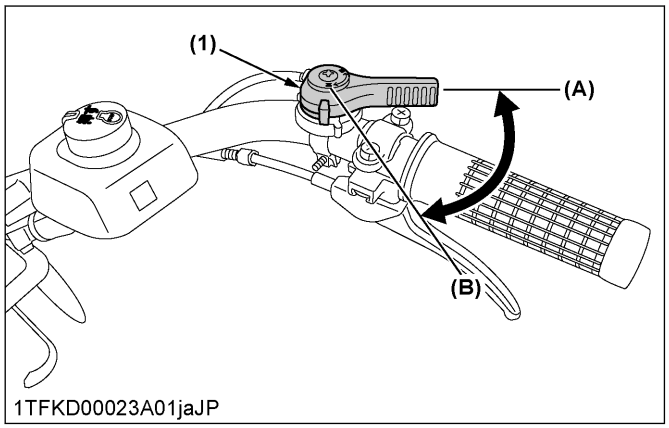
停止時



(1) メインスイッチ　　*(A)* 押す

スロットルレバー

スロットルレバーはエンジン回転の調整をします。
- **[高]**の方向に回すとエンジン回転が上がります。
- **[低]**の方向に回すとエンジン回転が下がります。



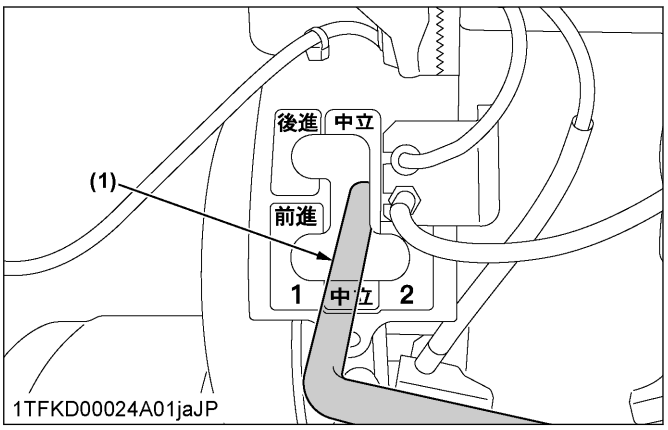
(1) スロットルレバー　　*(A)* ***[低]***
(B) ***[高]***

補足：
- **主変速レバーを[後進]位置にすると、連動してスロットルレバーが[低]の方向に回ります。[低]方向に回った後でも、手動で[高]位置に変更可能です。**

主変速レバー

⚠ 警告
- **エンジンを始動する前に、必ずレバーを[中立]にしてください。**
- **変速操作は主クラッチを切ってから行ってください。**
- **走行中は変速しないでください。**

変速は案内板の表示位置に合わせてシフトします。



(1) 主変速レバー

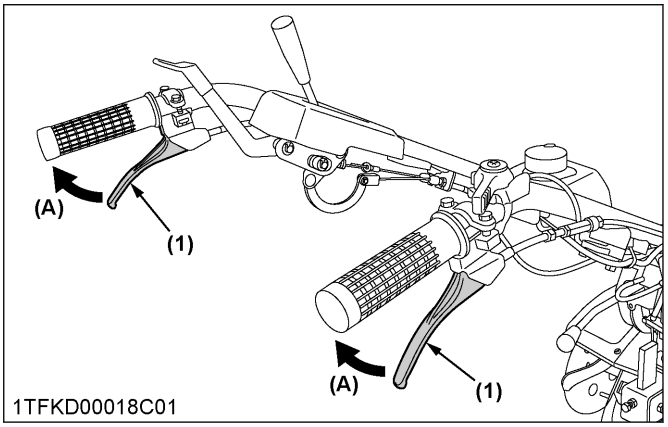
- 変速は前進 2 段、後進 1 段です。

操向クラッチレバー［S 仕様］

⚠ 警告
- **車両への積込み・積降ろし時や坂道では、絶対に操作しないでください。**

- 左側レバーを握ると左側車軸が停止し、左側に旋回します。
- 右側レバーを握ると右側車軸が停止し、右側に旋回します。

旋回のしかた
- 左側旋回するときは、左側操向クラッチレバーを握ると左側車軸が停止しますので、ハンドルを持ち上げ抵抗棒などを地面から離すようにして左旋回してください。
- 右側旋回するときは、右側操向クラッチレバーを握ると右側車軸が停止しますので、ハンドルを持ち上げ抵抗棒などを地面から離すようにして右旋回してください。



(1) 操向クラッチレバー　　*(A)* 握る

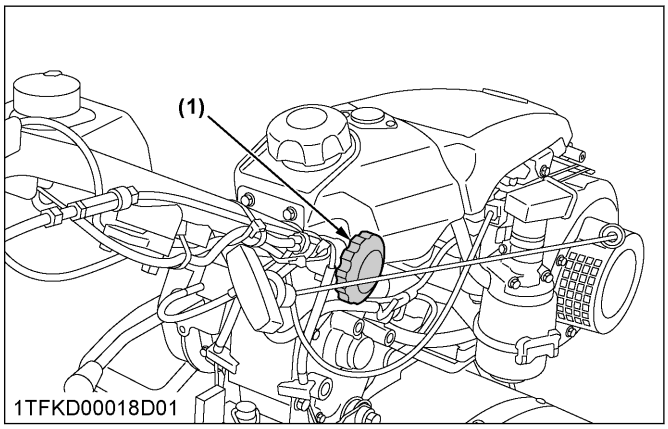
補足：
- **作業中はできるだけ操向クラッチレバーを握らないようにしてください。ハンドル操作での作業をしてください。**

ハンドル高さ調節ノブ

⚠ 警告

- **ハンドル高さを調節した際は、確実にハンドル高さ調節ノブが固定されているか確認してください。傷害事故のおそれがあります。**

ハンドル高さ調節ノブをゆるめると、ハンドル高さの調節ができます。
（詳細はハンドル高さの調節（29 ページ）参照）



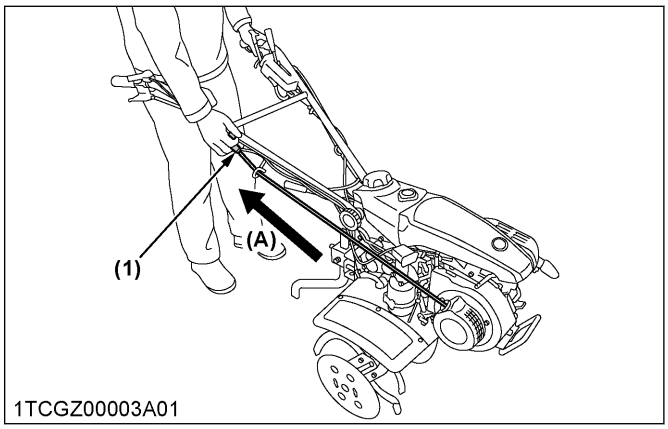
(1) ハンドル高さ調節ノブ

リコイルスタータ

⚠ 警告

- **リコイルスタータを引っ張る方向に人が居ないか、突起物や障害物が無いかを確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。**

エンジン始動時に使用します。
主クラッチレバーを**[切]**位置にし、メインスイッチを**[運転]**位置にして、リコイルスタータハンドルを引っ張ると始動します。

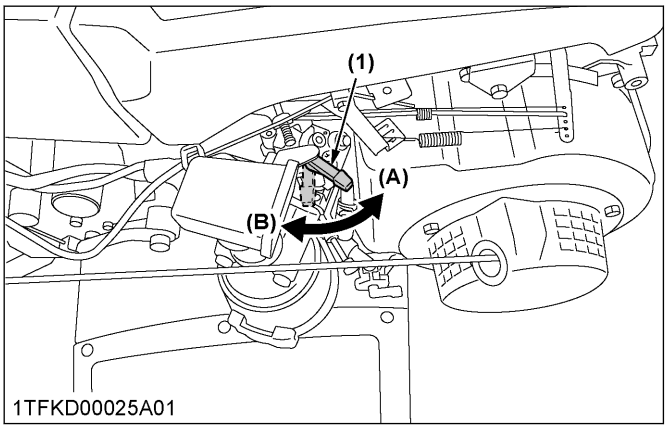


(1) リコイルスタータハンドル　*(A)* 引っ張る

チョークレバー

エンジンがかかりにくいときに使用します。

- 始動時は、チョークレバーを**[始動]**位置に切り換えます。
- 始動後は、チョークレバーを**[運転]**位置に切り換えます。



(1) チョークレバー
(A) ***[運転]***位置（始動後）
(B) ***[始動]***位置（始動時）

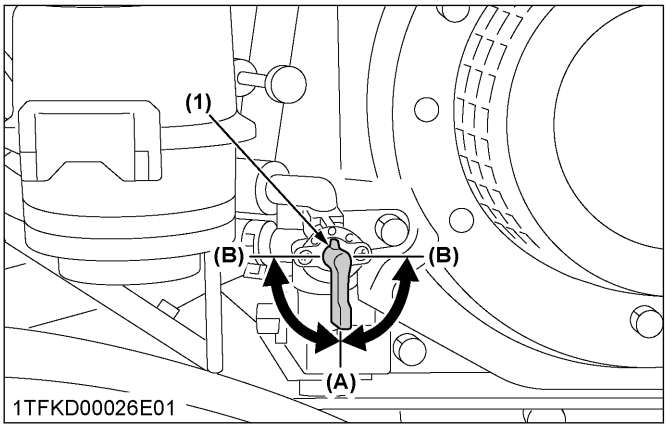
燃料コックレバー

重要：

- **燃料コックレバーを開いた状態で、前に倒したり車両で運搬すると、エンジン始動が困難になる場合があります。**

燃料タンクからエンジンへの燃料の供給と停止を切り換えます。
エンジン停止後、必ず燃料コックレバーを**[C]**位置（閉）にしてください。

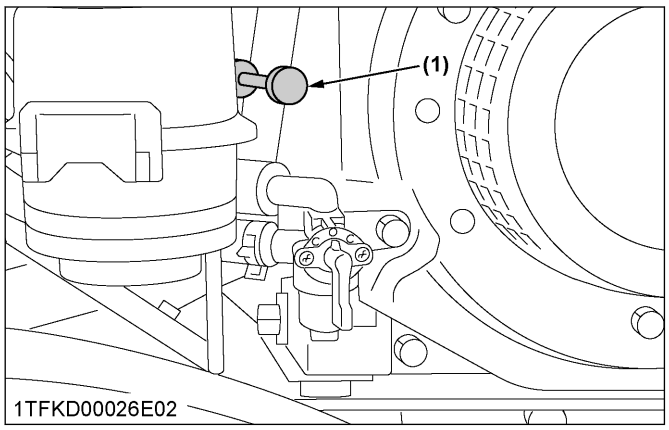
- **[O]**位置は、燃料コックを開き、エンジンへ燃料を供給します。
- **[C]**位置は、燃料コックを閉じ、エンジンへの燃料の供給を停止します。



(1) 燃料コックレバー
(A) ***[O]***位置（開）
(B) ***[C]***位置（閉）

クイックドレン

キャブレタ内の燃料を抜き取るときに使用します。
（詳細は燃料の抜取り（42 ページ）参照）



(1) クイックドレン

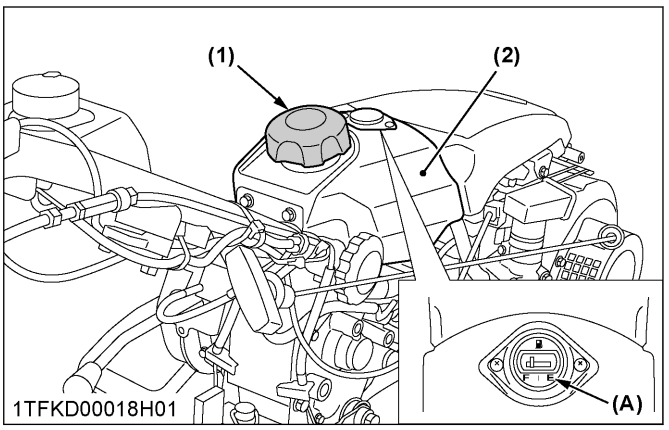
燃料タンクと燃料キャップ

⚠ 警告
- **給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。**
- **火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。**
- **燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。**
- **燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。**
- **給油後、燃料キャップはガソリンが漏れないようしっかり締めてください。**
- **前述の作業をおこたると、爆発や火災のおそれがあります。**

燃料タンクの下限まで液面がきたら燃料を補給してください。
燃料キャップを外し、給油口から自動車用レギュラーガソリンを補給します。

重要：
- **燃料タンク内にゴミや水およびその他異物が混入しないように、注意してください。**

規定量	2.6 L

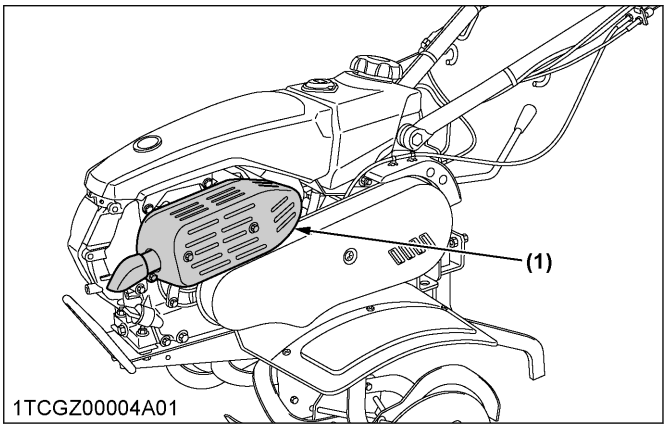


(1) 燃料キャップ
(2) 燃料タンク
(A) 下限

マフラ

⚠ 警告
- **マフラに手を触れないでください。ヤケドをするおそれがあります。**

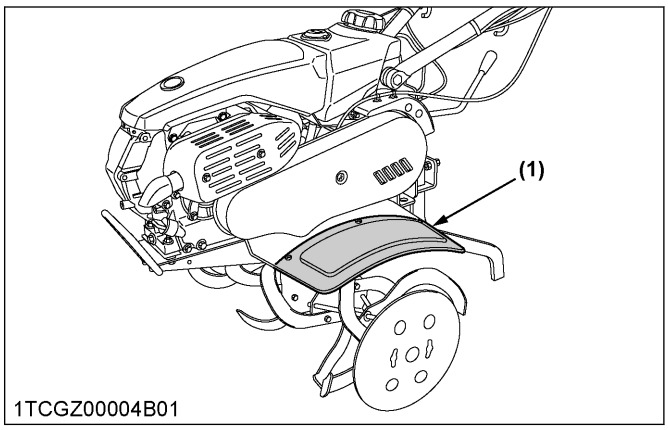
マフラには燃料の燃焼によって発生したガスの排気、爆発音の吸音・消音の役割があります。



(1) マフラ

延長フェンダ

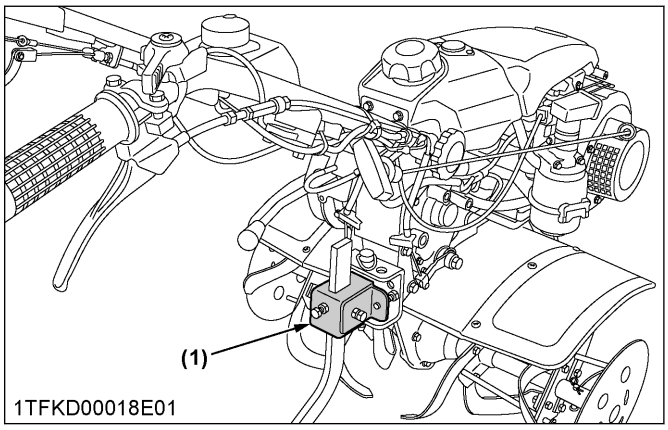
フェンダを延長し、泥はねを抑えます。



(1) 延長フェンダ

ユニバーサルヒッチ

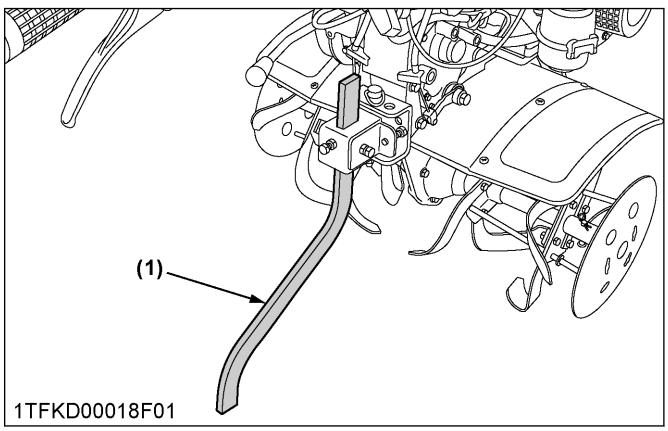
抵抗棒やアタッチメント装着時に使用します。
（詳細はユニバーサルヒッチの組付けかた（29 ページ）を参照）



(1) ユニバーサルヒッチ

抵抗棒［C 仕様、別売 OP（スターロータ）］

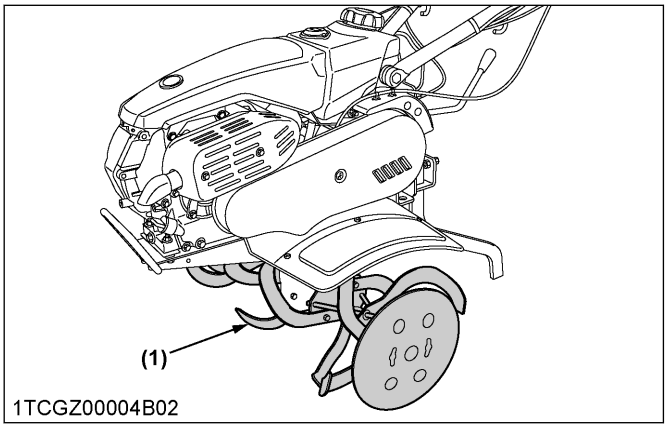
耕うん深さを調節する役目をします。
（詳細は抵抗棒の組付けかた［C 仕様、別売 OP（スターロータ）］（30 ページ）を参照）



(1) 抵抗棒

ナタ爪ロータ［C 仕様］

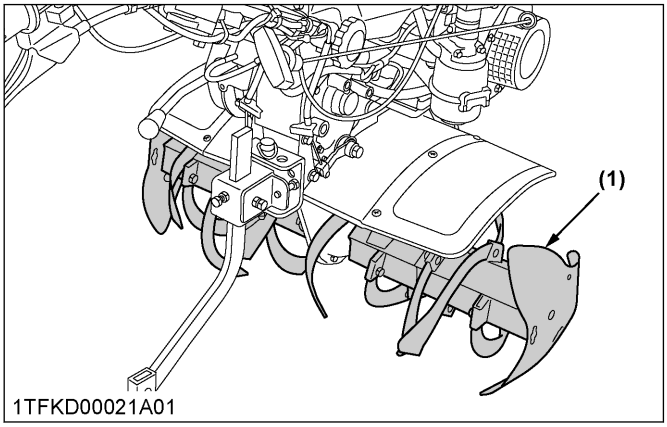
耕うん作業時に回転して土を耕します。
（詳細はナタ爪ロータのセットのしかた［C 仕様］（31 ページ）を参照）



(1) ナタ爪ロータ

スターロータ（別売 OP）

耕うん作業時に回転して土を耕します。
（詳細はスターロータのセットのしかた（別売 OP）（30 ページ）を参照）



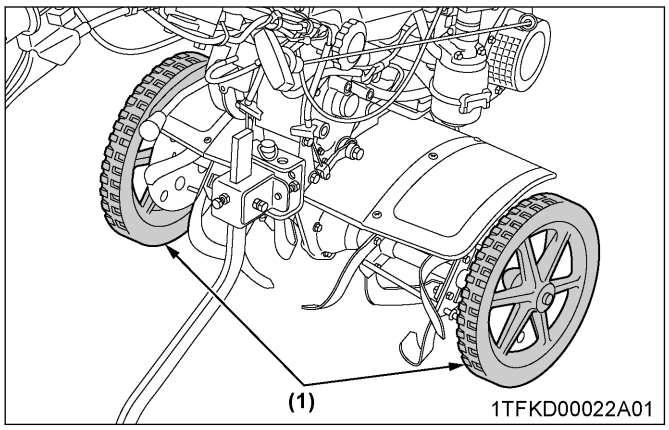
(1) スターロータ

ナタ爪用移動輪（別売 OP）、スターロータ用移動輪（別売 OP）

⚠ 警告

- **エンジンが高速回転時、主クラッチレバーを[入]位置にすると機体が飛び出し危険です。**

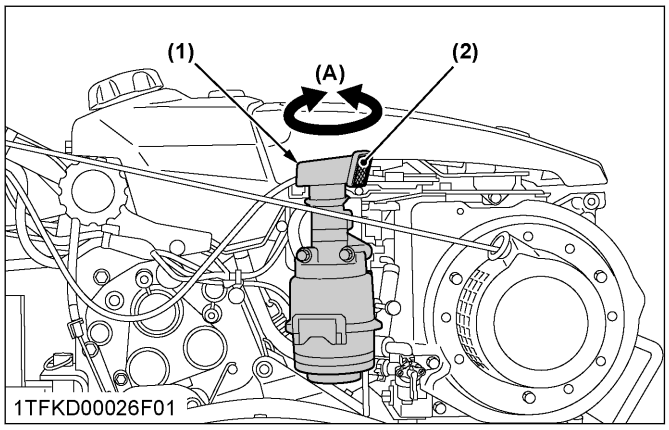
移動するときに使用します。移動輪を取り付けて移動するときは、必ずスロットルレバーを**[低]**位置にし、エンジン回転を下げてください。
（詳細はナタ爪用移動輪（別売 OP）、スターロータ用移動輪（別売 OP）の取付けかた（32 ページ）を参照）



(1) ナタ爪用移動輪（別売 *OP*）、スターロータ用移動輪（別売 *OP*）

エアクリーナ

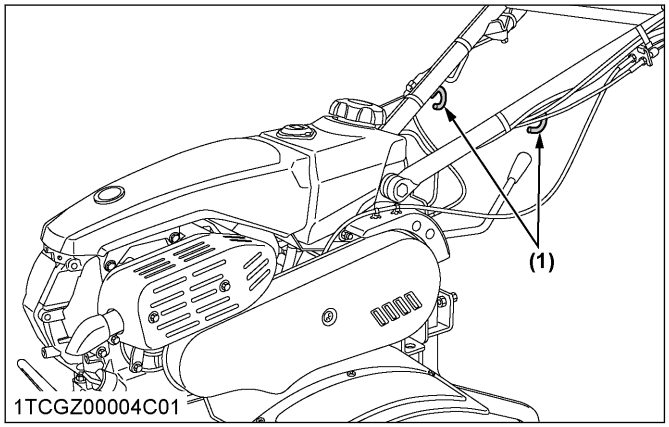
エンジンに清浄な空気を供給するための装置です。
エアクリーナの吸込口が回動します。作業に応じ、チリやホコリの少ない方に吸込口の向きを変えてください。



(1) エアクリーナ
(2) 吸込口
(A) 回動

ロープ掛け用フック

機体をロープで固定するときに使用します。



(1) ロープ掛け用フック

作業前の点検

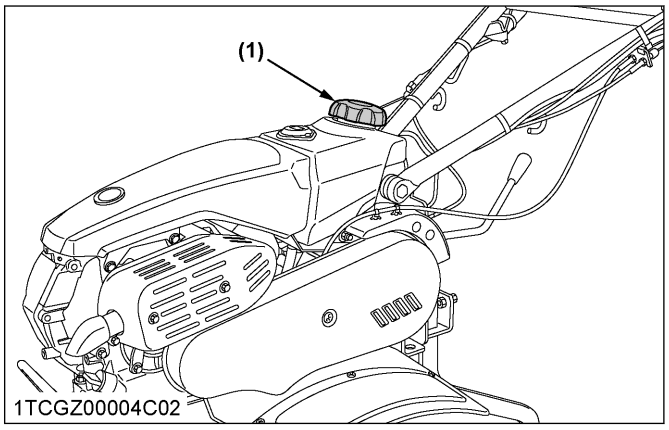
⚠ 警告
- **平たんな場所に機械を安定させて点検してください。**
- **点検中はエンジンを停止してください。**

調子よく作業するために

⚠ 警告
- **給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。**
- **火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。**
- **燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。**
- **燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。**
- **給油後、燃料キャップはガソリンが漏れないようしっかり締めてください。**
- **前述の作業をおこたると、爆発、火災のおそれがあります。**

（詳細は管理機の点検・整備のしかた（33 ページ）を参照）

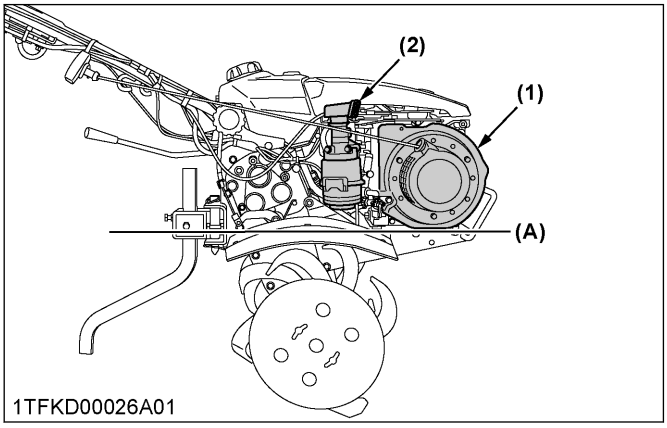
燃料
- 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- 燃料キャップを外し、給油口内の赤色ゲージを超えないように補給してください。
- タンク容量 ： 約 2.6 L（赤色ゲージ以下にします。）



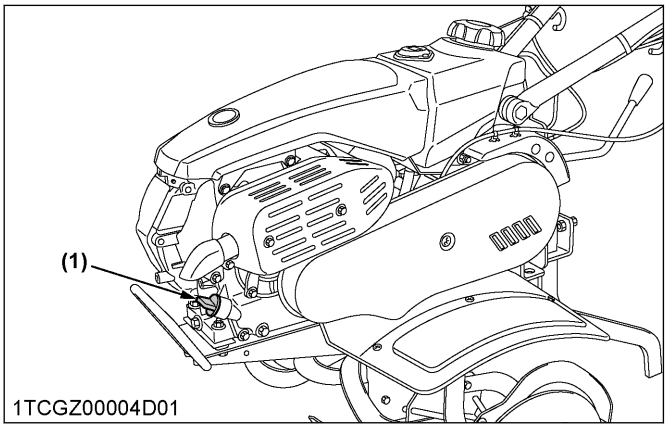
(1) 燃料キャップ

エンジンオイル
- エンジンを水平にして、オイルゲージで規定量あるか点検します。

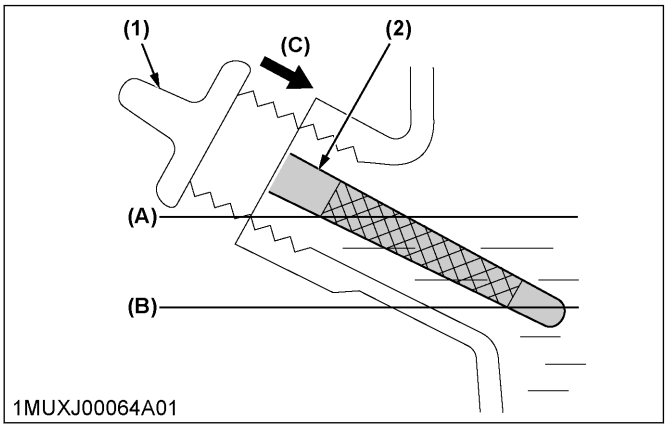
エンジン水平状態



(1) エンジン
(2) エアクリーナ
(A) 水平



(1) 給油口（エンジンオイル点検）

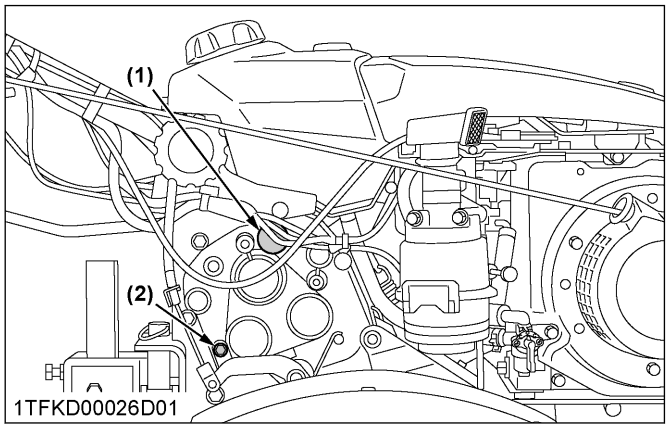


(1) 給油プラグ
(2) オイルゲージ
(A) オイルが溢れない位置（上限）
(B) ゲージの先端（下限）
(C) ねじ込まずに差し込む

- 不足している場合は、純正オイルを補充します。（ガソリンエンジン用）**スーパーマルチ GD 10W-30**

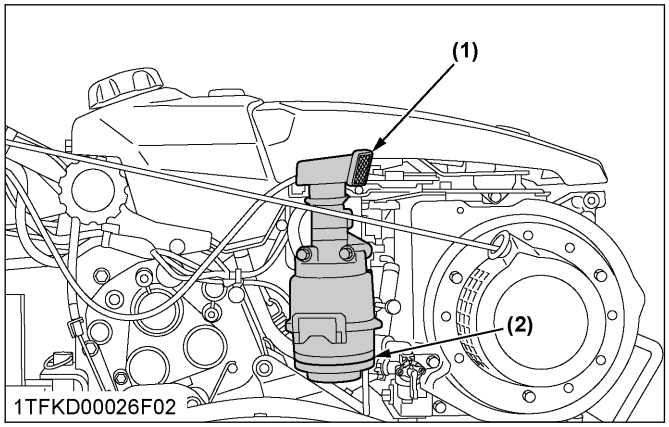
（詳細はエンジンオイルの交換（36 ページ）を参照）

ミッションオイル
- エンジンを水平にして、検油ボルトを外し、検油口までオイルがあるか点検します。
- 不足している場合は、純正オイルを補充します。（ミッション用）**M80B** または**スーパー UDT-2**



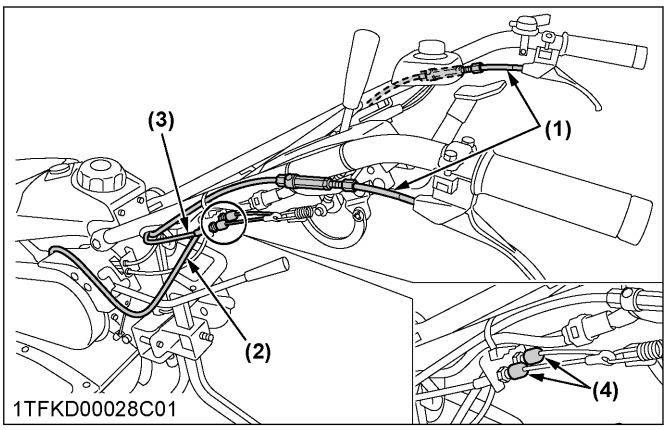
(1) ミッションオイル給油プラグ
(2) 検油ボルト（検油口）

エアクリーナ
- 新車（納車）時は、オイルを入れます。
- オイルパンの規定線**[OIL LEVEL]**まであるか点検します。
- 不足している場合は、エンジンオイルを補充します。
- オイルパンのオイルが汚れていないか点検します。
- エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。



(1) エアクリーナ
(2) 規定線***[OIL LEVEL]***

各ケーブル
- 主クラッチケーブルと後進リターンケーブルは、ケーブルのキャップを外し、ケーブル注油部よりエンジンオイルを注油します。
- 操向クラッチレバーケーブル（左右）［S 仕様］は、ケーブル注油部より、エンジンオイルを注油します。



(1) 操向クラッチレバーケーブル（左右）［*S* 仕様］
(2) 主クラッチケーブル
(3) 後進リターンケーブル
(4) ケーブルのキャップ

その他
- エンジン、ミッションなどから油漏れがないか点検します。
- 各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
- 各部の損傷およびボルト、ナットのゆるみがないか点検します。

重要：
- **水やゴミを混入しないようにしてください。**

安全に作業するために

主クラッチレバー
- クラッチの**[入]**と**[切]**が確実に行えるか点検してください。
- 不良の場合は調節してください。（詳細は主クラッチケーブルの調節（40 ページ）を参照）

主変速レバー
- 変速が案内板の表示位置で確実に行えるか点検します。

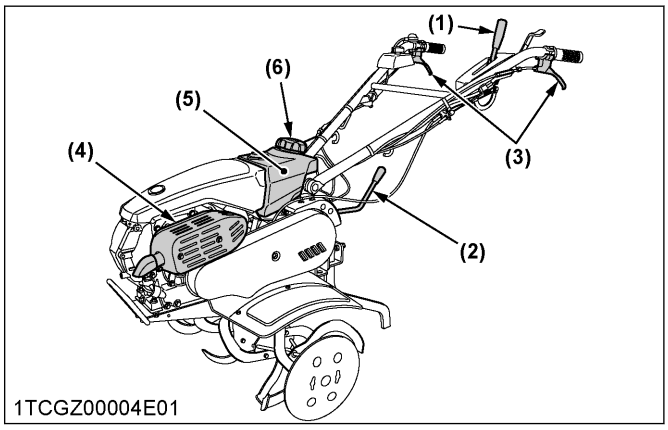
操向クラッチレバー［S 仕様］
- クラッチの**[入]**と**[切]**が確実に行えるか点検してください。
- 不良の場合は調節・注油してください。（調節の詳細は、操向クラッチケーブルの調節［S 仕様］（41 ページ）を参照）

電気配線
- 被覆が溶けたり被れていないか、また配線がはさまれていないか点検してください。

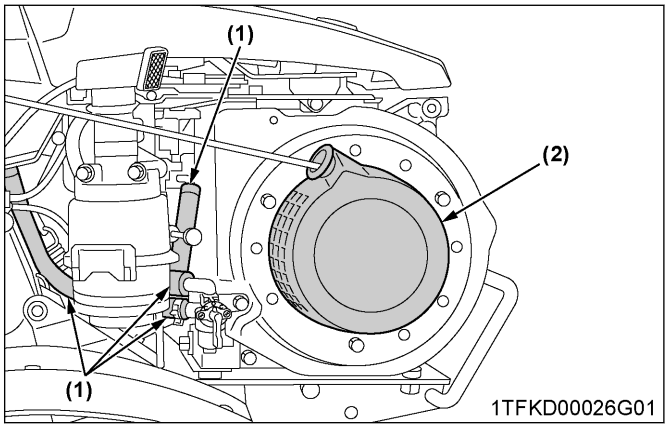
エンジン周辺部
- ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着が無いか点検してください。

燃料
- タンクや燃料チューブからガソリン漏れが無いか点検してください。
  漏れがある場合は、修理点検してください。
- 自動車用レギュラーガソリンを補給してください。

- タンク容量の規定量（赤ゲージ位置）以上入れないでください。
- 給油後、ガソリンが漏れないよう確実に燃料キャップを締めてください。



(1) 主クラッチレバー
(2) 主変速レバー
(3) 操向クラッチレバー［*S* 仕様］
(4) マフラカバー
(5) 燃料タンク
(6) 燃料キャップ



(1) 燃料チューブ
(2) ファンカバー

運転のしかた

新車時の扱いかた

1. 管理機の準備

工場出荷時はエンジンオイルやミッションオイル、エアクリーナのオイルが入っていません。
日常点検方法に従い確認し、必要に応じて給油してください。
（詳細は日常点検（36 ページ）を参照）

2. ならし運転（最初の 10 時間まで）

この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ無理をさせないようにしてください。

運転前の点検

1. 運転前の日常点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行ってください。
（詳細は日常点検（36 ページ）を参照）

エンジンの始動と停止のしかた

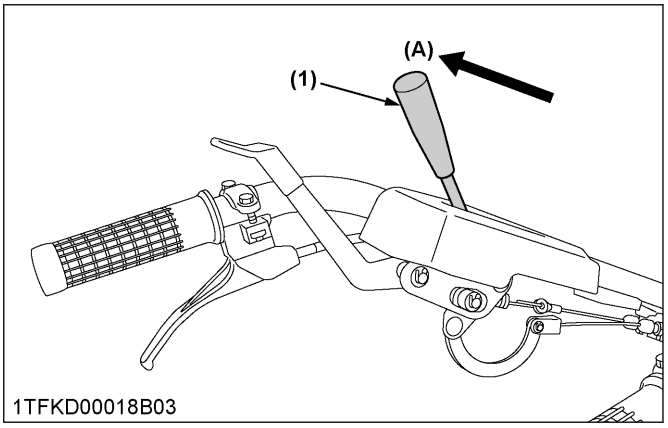
1. 始動のしかた

⚠ 警告

- **マフラの排気出口方向に、燃えやすい物を置かないでください。火災が発生する原因となります。**
- **リコイルスタータを引っ張る方向に人が居ないか、突起物や障害物が無いか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。**
- **エンジンの運転中は、危険なので操作レバー以外の物（マフラなど）には、触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。**
- **夜間作業はしないでください。**
- **エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず[切]位置にしてください。**
- **主変速レバーを[中立]位置にしてください。**

1.1 リコイル始動のしかた

1. 主クラッチレバーを**[切]**位置にします。

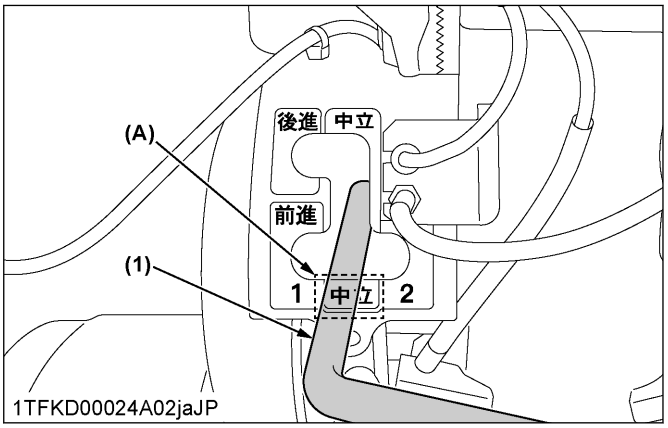


(1) 主クラッチレバー　　*(A)* ***[切]***位置

補足：

- **主クラッチレバーが[入]位置では始動牽制装置が作動してエンジンは始動しません。**
- **主クラッチレバーとフィンガーレバーは連動しているので、どちらでも主クラッチ操作ができます。**

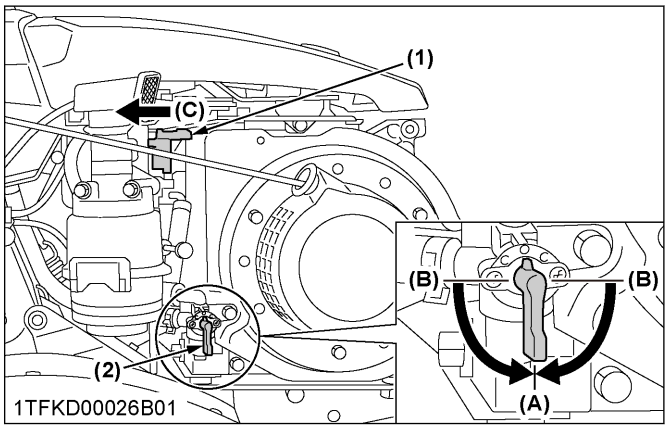
2. 主変速レバーを**[中立]**位置にします。



(1) 主変速レバー　　*(A)* ***[中立]***位置

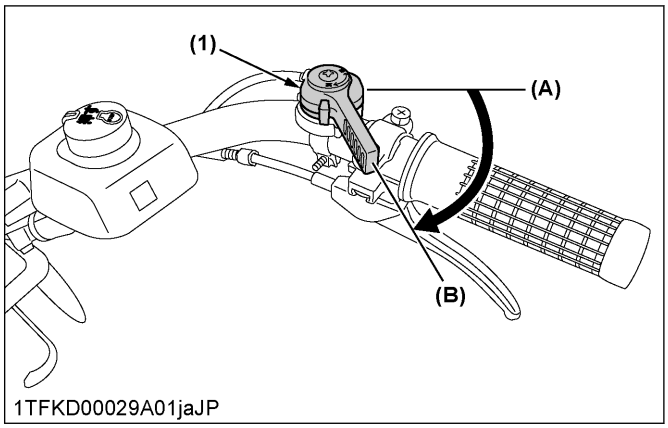
3. 燃料コックレバーを**[O]**（開）位置にします。

4. チョークレバーを**[始動]**位置に切り換えます。



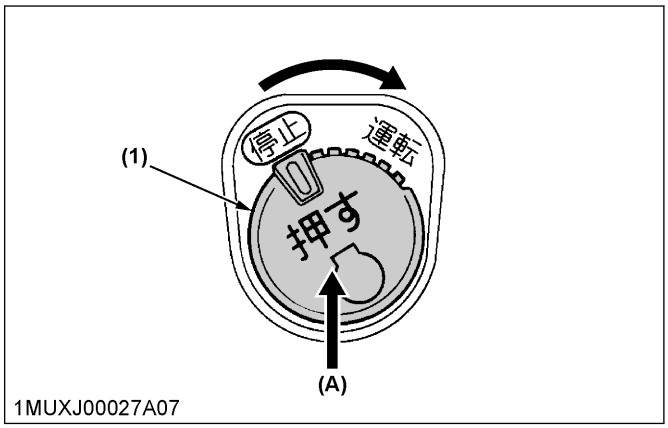
(1) チョークレバー
(2) 燃料コックレバー
(A) ***[O]***（開）位置
(B) ***[C]***（閉）位置
(C) ***[始動]***位置

5. スロットルレバーを**[高]**位置にします。



(1) スロットルレバー
(A) ***[低]***位置
(B) ***[高]***位置

6. メインスイッチを押しながら**[運転]**位置まで回します。

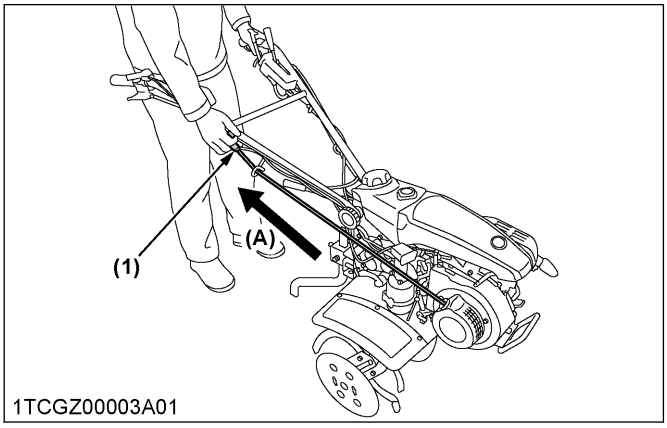


(1) メインスイッチ
(A) 押しながら回す

7. リコイルスタータハンドルを握って、引っ張ります。エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻してください。

⚠ 警告

- **リコイルスタータを引っ張る方向に人が居ないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。**



(1) リコイルスタータハンドル
(A) 引っ張る

8. エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを**[運転]**位置に戻します。
9. 2 分～3 分暖気運転をしてから、作業を始めてください。

重要 :

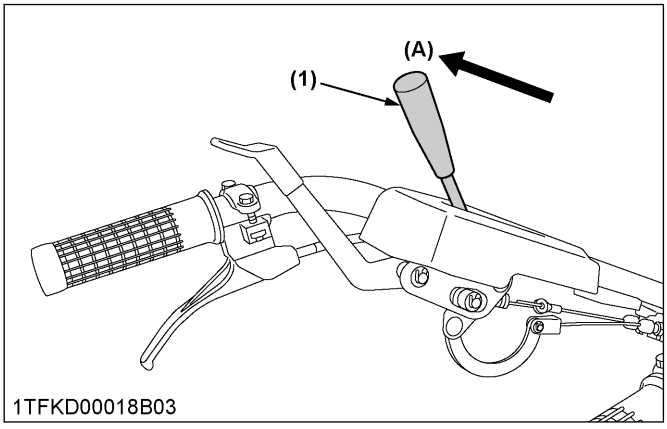
- **運転中はリコイルスタータを引かないでください。**

2. 停止のしかた

⚠ 警告

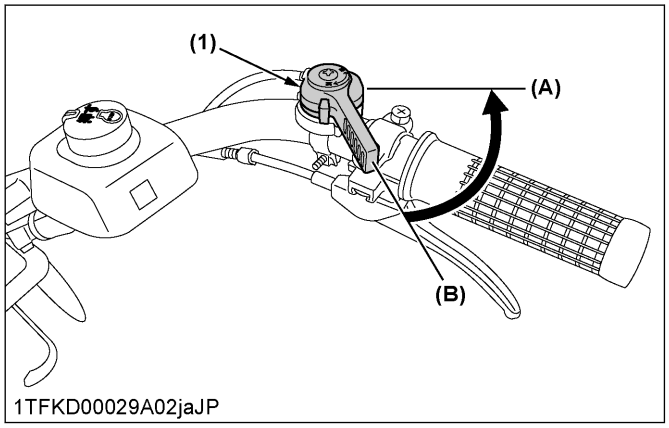
- **停止直後はしばらくマフラが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。**

1. 主クラッチレバーを**[切]**位置にします。



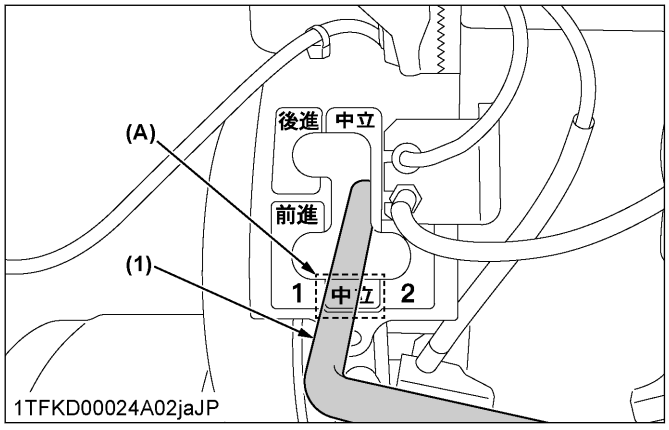
(1) 主クラッチレバー
(A) ***[切]***位置

2. スロットルレバーを**[低]**位置にします。



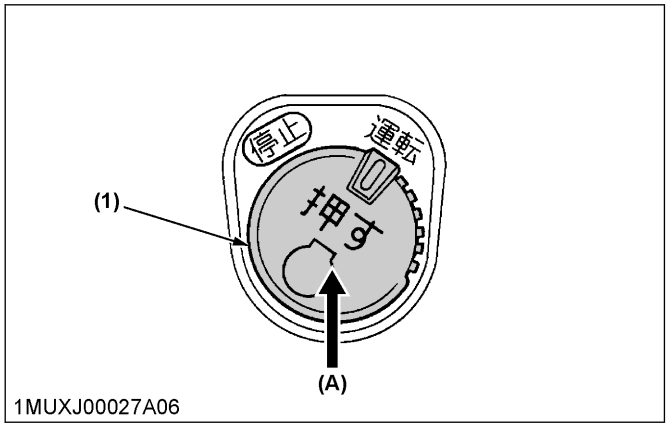
(1) スロットルレバー　*(A)* ***[低]***位置
(B) ***[高]***位置

3. 主変速レバーを**[中立]**位置にします。



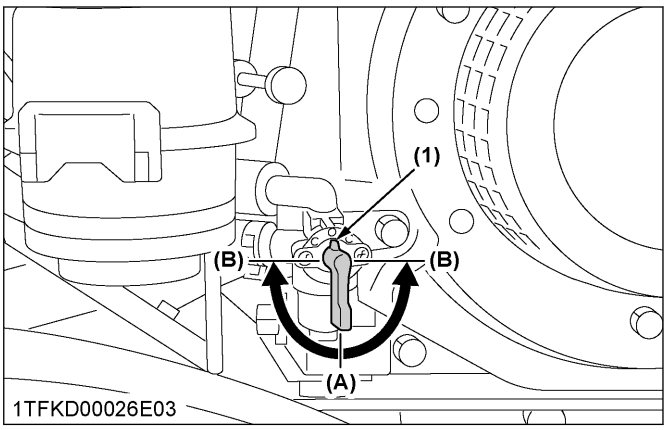
(1) 主変速レバー　*(A)* ***[中立]***位置

4. メインスイッチを押すと左に回って**[停止]**位置に戻り、エンジンが停止します。



(1) メインスイッチ　*(A)* 押す

5. 燃料コックレバーを**[C]**（閉）にします。



(1) 燃料コックレバー　*(A)* ***[O]***（開）
(B) ***[C]***（閉）

重要：
- **燃料コックレバーを開いたままの状態で前に倒したり、保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。**

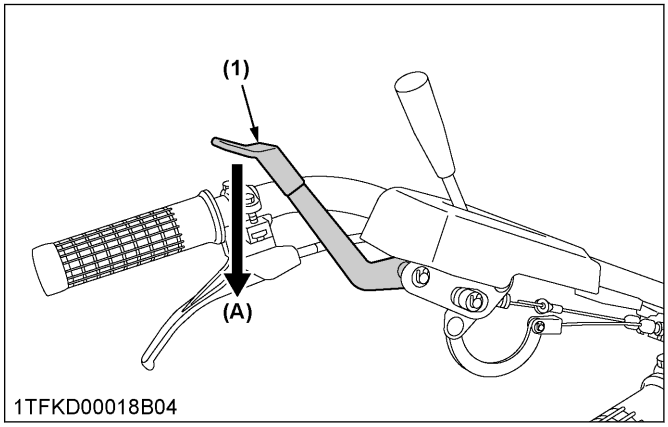
発進のしかた

⚠ 警告
- **傾斜地や狭い場所で作業する場合、エンジンの回転を低速にし、周囲の安全を確かめ、主クラッチレバーをゆっくり操作してください。**
- **運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。**
- **危険を感じたら、早めに手を離してください。**
- **主クラッチレバーの操作は、ゆっくり行ってください。急激な操作を行うと機体が飛び出し危険です。**
- **移動輪を取り付けて移動するときは、必ずスロットルレバーを[低]位置にし、エンジン回転を下げてください。**
- **スロットルレバーが[高]位置で主クラッチレバーを[入]位置にすると、機体が飛び出し危険です。**
- **機体を持ち上げるときは、必ずエンジンを止めてください。ロータが回転して危険です。**
- **狭い場所での運転や後進の運転については、エンジンの回転を低速にし、後方や上方などまわりの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操作をしてください。**

1. 主クラッチレバーが**[切]**の位置にあることを確認した後、主変速レバーを必要な変速位置にします。

2. 主クラッチレバーを**[入]**にして発進します。

補足：
- **主変速レバーが[後進]位置では、牽制装置がはたらき主クラッチレバー・フィンガーレバーは[入]位置でロックできません。レバーから手を放すと[切]位置に戻ります。**
- **フィンガーレバーを下に押すと、ハンドルを握ったまま主クラッチを入れることができます。**



(1) フィンガーレバー　　*(A)* 押す

3. スロットルレバーを操作して速度を調整します。

作業のしかた

上手な作業のしかた

次の操作手順を守り安全作業を心掛けてください。

1. 作業前の準備

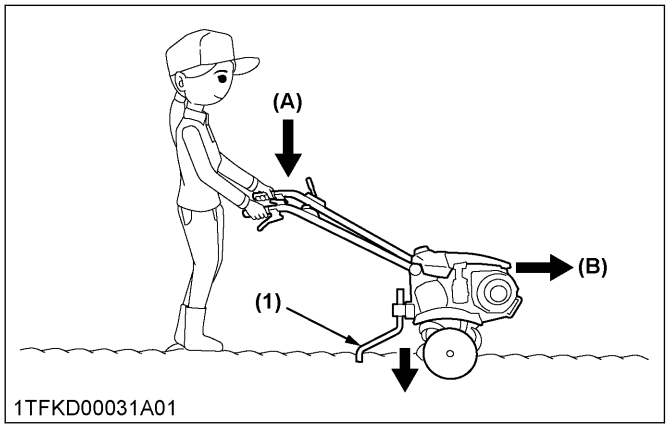
作業目的に合わせた設定を行ってください。
（詳細は各部の名称と装置の取扱い（14 ページ）、各部の調節（29 ページ）を参照）

2. 耕うん作業手順

丈の長い草や大きな石など、あらかじめ除去しておくと楽に耕すことができます。

2.1 耕うん作業手順

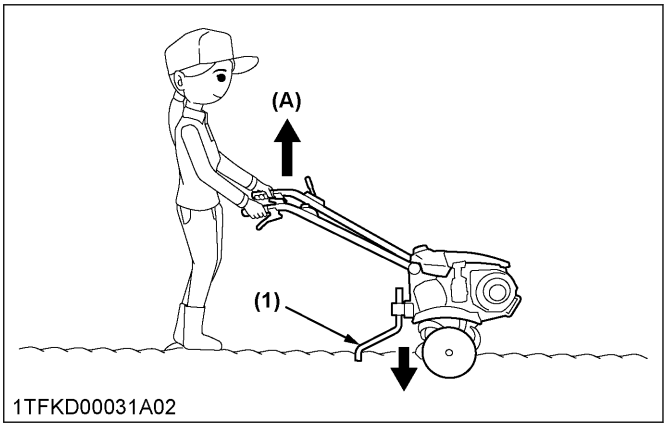
1. 耕したい場所（地面）で、ハンドルを下へ押し下げながら、抵抗棒を地面に沈みこませます。
2. 主クラッチレバーを**[入]**位置にし、耕うん爪を地面に食い込ませながら発進し、同じ場所を何回か耕うんしながら少しずつゆっくりと前方に進みます。



(1) 抵抗棒
(A) ハンドルを押し下げる
(B) ゆっくり前進

2.1.1 機体が深くもぐって前に進まないとき

1. ハンドルを上方向に軽く持ち上げます。
2. 抵抗棒の沈みが浅くなり、機体が前に進みやすくなります。



(1) 抵抗棒
(A) ハンドルを軽く持ち上げる

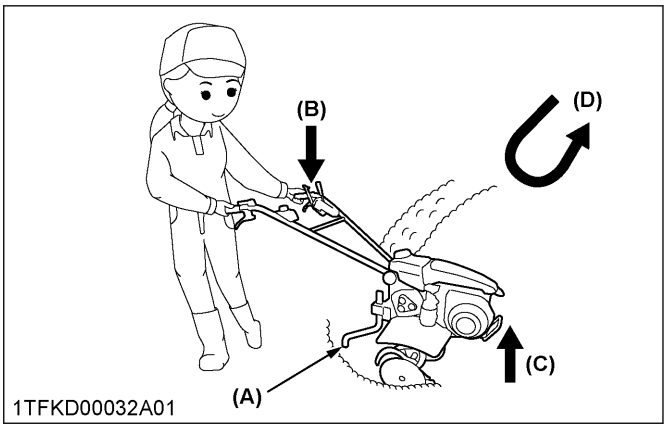
2.1.2 旋回のしかた

重要：

- **ハウスや小屋の中、果樹園など障害物が有る場所では主クラッチレバーを切り、周囲をよく確認しながら旋回してください。**

[S 仕様以外]

1. スロットルレバーを**[低]**位置にします。
2. 耕うんしながらハンドルを少し押し下げます。
3. ロータ部を少し上げて、抵抗棒を引きずりながら旋回します。



(A) 支点
(B) 少し押し下げる
(C) 少し上げる
(D) 旋回

[S 仕様]

左側旋回するとき

1. スロットルレバーを**[低]**位置にします。
2. 左側操向クラッチレバーを握ると左側車軸が停止します。

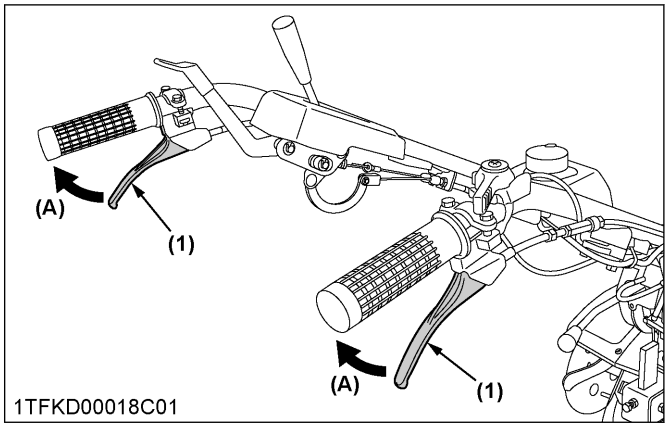
3. ハンドルを持ち上げ抵抗棒を地面から離すようにして左旋回してください。

右側旋回するとき

1. スロットルレバーを**[低]**位置にします。
2. 右側操向クラッチレバーを握ると右側車軸が停止します。
3. ハンドルを持ち上げ抵抗棒などを地面から離すようにして右旋回してください。

補足：

- **作業中はできるだけ操向クラッチレバーを握らないようにしてください。ハンドル操作での作業をしてください。**



(1) 操向クラッチレバー　　*(A)* 握る

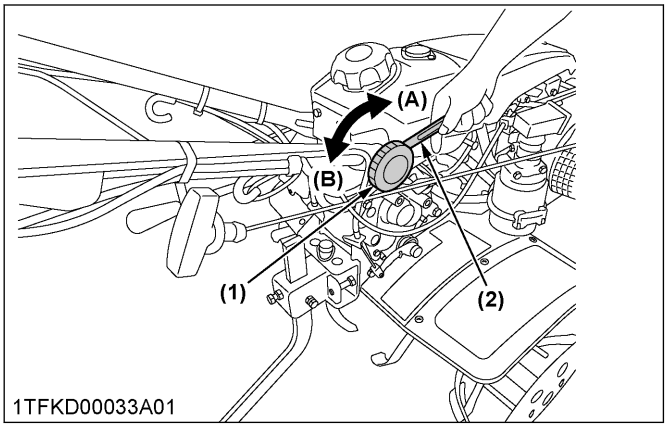
各部の調節

1. ハンドル高さの調節

⚠ 警告

- **燃料コックレバーを[O]（開）位置の状態で前に倒すとエンジン始動が困難になる場合がありますので、必ず燃料コックレバーを[C]（閉）位置にしてから前方に倒してください。**
- **平たんな場所に機械を安定させて、エンジンを必ず停止して行ってください。傷害事故のおそれがあります。**

1. 前部プロテクタを地面に接地させます。
2. ハンドル高さ調節ノブを 4 回転～5 回転ゆるめて、高さを調節します。
   ノブがかたくて回せない場合は、スパナでゆるめてください。
   ハンドルがガタつく場合は、スパナで締め付けてください。



(1) ハンドル高さ調節ノブ　　*(A)* 上
(2) スパナ　　*(B)* 下

2. ユニバーサルヒッチ、抵抗棒の組付けかた

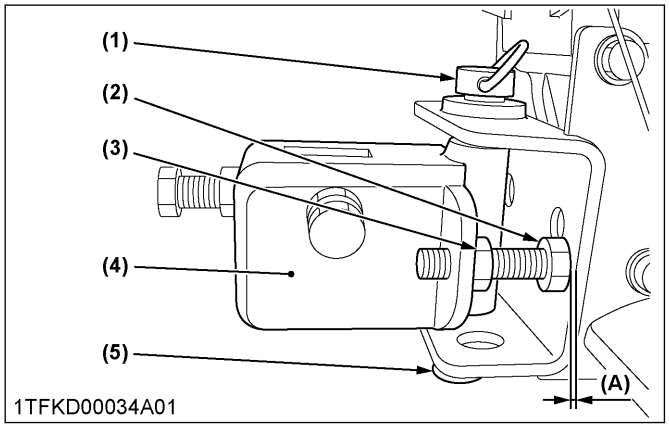
⚠ 警告

- **抵抗棒を作業位置へセットするときは、エンジンを停止してください。傷害事故のおそれがあります。**
- **燃料コックレバーを[O]（開）位置の状態で前に倒すとエンジン始動が困難になる場合がありますので、必ず燃料コックレバーを[C]（閉）位置にしてから前方に倒してください。**
- **取付け・取外しは平たんな場所で行ってください。**

2.1 ユニバーサルヒッチの組付けかた

1. 前部プロテクタを地面に接地させます。
2. 本機後方ヒッチにユニバーサルヒッチを組み付けます。
3. ヒッチピンを差し込みスナップピンで固定します。
4. ボルトと本機ヒッチの隙間が左右とも 1 mm～3 mm になるようボルトを調整します。

5. ユニバーサルヒッチの左右の振りが同じか確認し、ナットを確実に締め付けます。

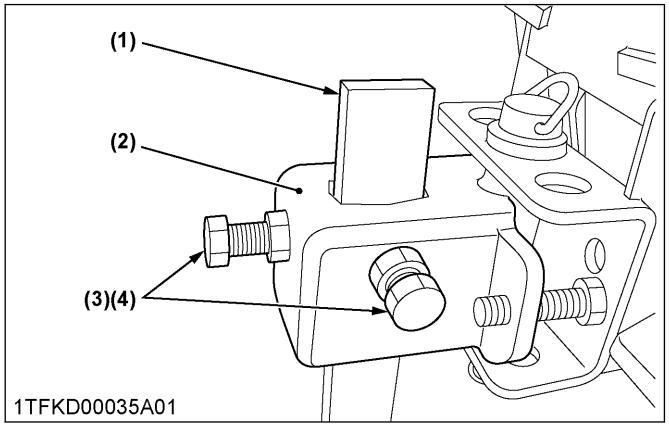


(1) ヒッチピン
(2) ボルト（2本）
(3) ナット（2個）
(4) ユニバーサルヒッチ
(5) スナップピン
(A) 隙間

(A) 隙間	1 mm～3 mm

2.2 抵抗棒の組付けかた [C 仕様、別売 OP（スターロータ）]

1. 前部プロテクタを地面に接地させます。
2. ユニバーサルヒッチに抵抗棒を差し込みます。
3. 作業に応じて抵抗棒の高さを調整します。
4. ボルトを確実に締め付け、ロックナットをします。



(1) 抵抗棒
(2) ユニバーサルヒッチ
(3) ボルト（2本）
(4) ナット（2個）

ロータ部の各種部品のセットのしかた

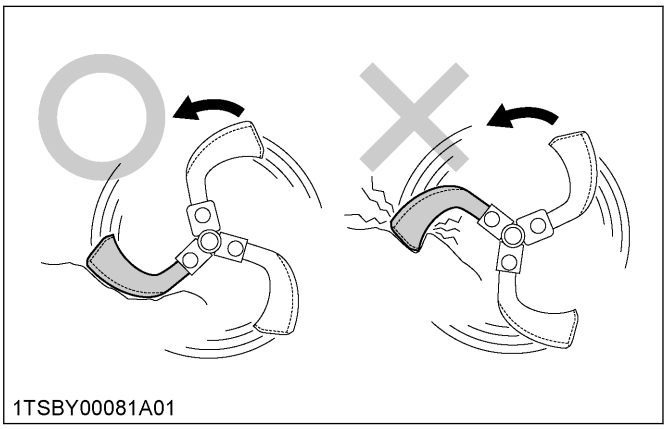
⚠ 警告

- **作業機の交換・調整をするときは、本機を平たんな広い場所に置き必ずエンジンを停止して作業してください。**

重要：

- **ロータを交換するときは、必ず燃料コックレバーを[C]（閉）位置にしてください。**
- **爪軸の取付け方法と逆の回転方向で使用すると、故障や前方への飛び出しの原因となります。**

爪を取り付ける向き



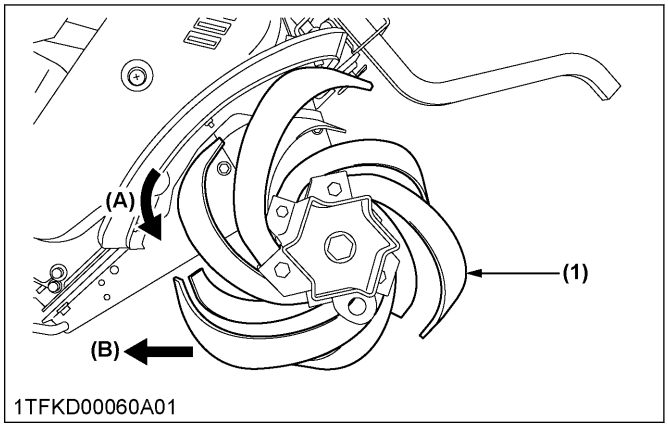
1. スターロータのセットのしかた（別売OP）

重要：

- **車軸にロータをセットするときは、左右同時打ち込みになるように[左][右]ラベルを合わせて取り付けてください。**

1. 次図のように固定ピンを差し込み、スナップピンで固定します。

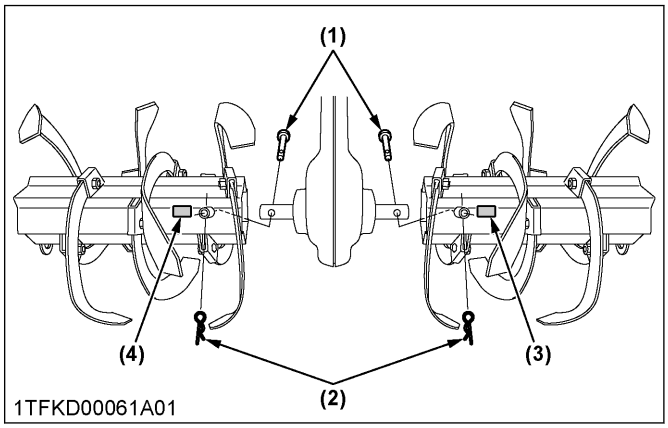
左から見て



1TFKD00060A01

(1) スターロータ
(A) 回転方向
(B) 前方

後ろから見て



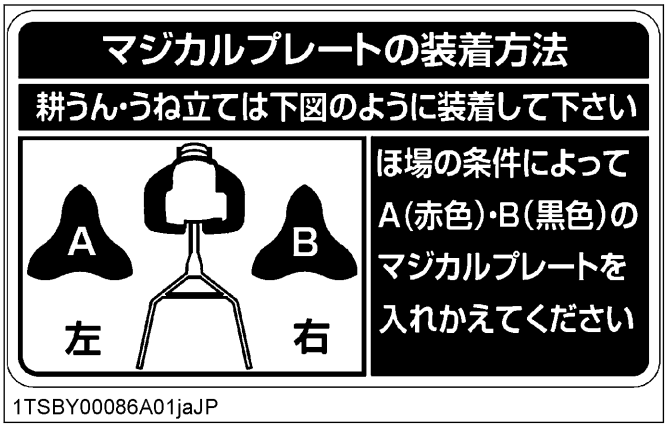
1TFKD00061A01

(1) 固定ピン
(2) スナップピン
(3) ラベル***[右]***
(4) ラベル***[左]***

2. スターロータにマジカルプレートを取り付けます。（取付け方法の詳細は、マジカルプレートの装着方法（31 ページ）を参照）

2. マジカルプレートの装着方法

マジカルプレートは、プレートの回転方向により土にくい込む方向と、浮く方向があります。通常の状態（**[A]**左、**[B]**右）で使用すると爪は土の中に深く入っていきます。ロータがもぐり込み、前に進みにくいほ場では左右のプレートを逆に取り付ける（**[B]**左、**[A]**右）とロータが浮きスムーズな耕うんが可能になります。
通常の作業は、次図のようにマジカルプレートをセットしてください。
ほ場の条件によってマジカルプレートを入れ替えてください。

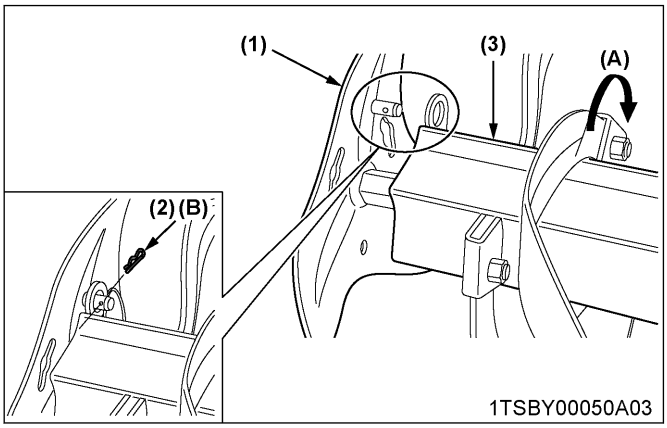


1TSBY00086A01jaJP

マジカルプレートは次図のようにロータのドラムに差込みスナップピンで固定します。

重要：

- **スナップピンは爪の回転方向と逆向きになるように差し込んでください。そうしないと、ロータの脱落により機体が破損するおそれがあります。**



1TSBY00050A03

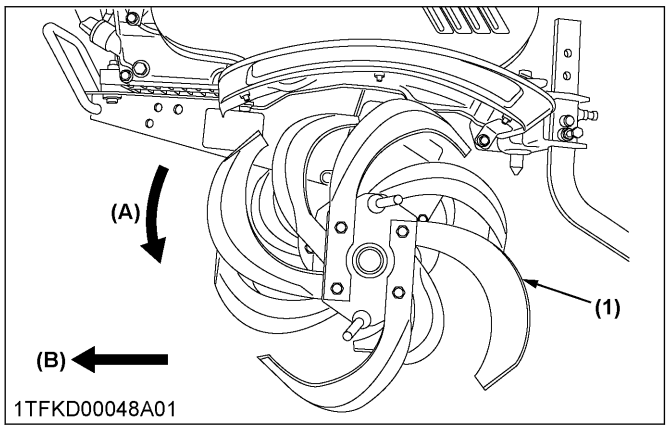
(1) マジカルプレート
(2) スナップピン
(3) ドラム
(A) 回転方向
(B) 回転方向と逆向き

3. ナタ爪ロータのセットのしかた[C 仕様]

推奨作業	耕うん作業、培土作業

1. ナタ爪ロータは次図のように固定ピンを差し込み、スナップピンで固定します。

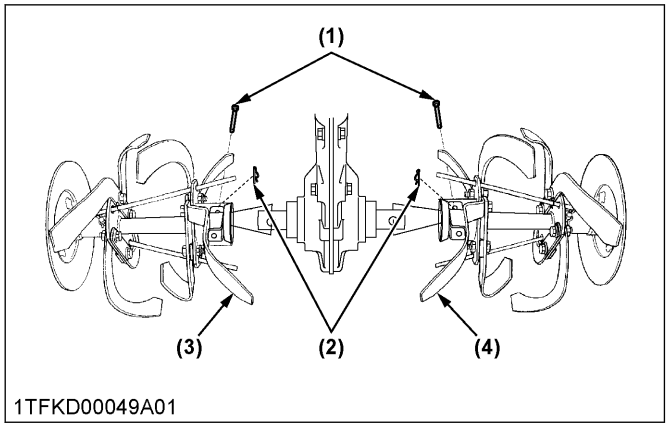
左から見て



(1) ナタ爪ロータ
(A) 回転方向
(B) 前方

重要：
- **スナップピンは爪の回転方向と逆向きになるように差し込んでください。そうしないと、ロータの脱落により機体が破損するおそれがあります。**

後ろから見て



(1) 固定ピン
(2) スナップピン
(3) 左ロータ
(4) 右ロータ

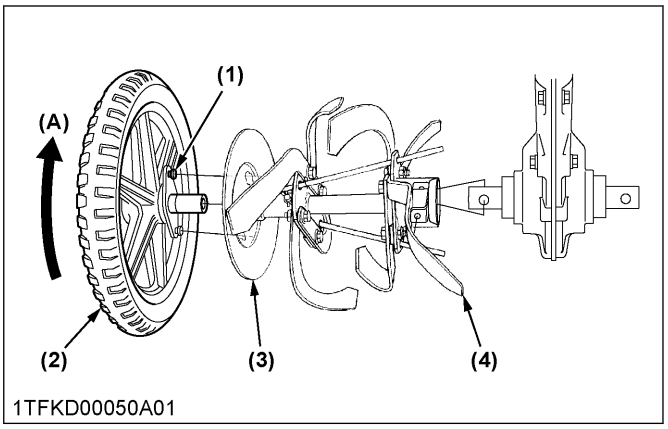
4. ナタ爪用移動輪（別売 OP）、スターロータ用移動輪（別売 OP）の取付けかた

重要：
- **移動専用の車輪のため、ロータ作業時には装着しないでください。**
- **移動輪を取り付けて移動するときは、必ずスロットルレバーを[低]の位置にし、エンジン回転を下げてください。**

移動輪をプレートに取り付けるとき

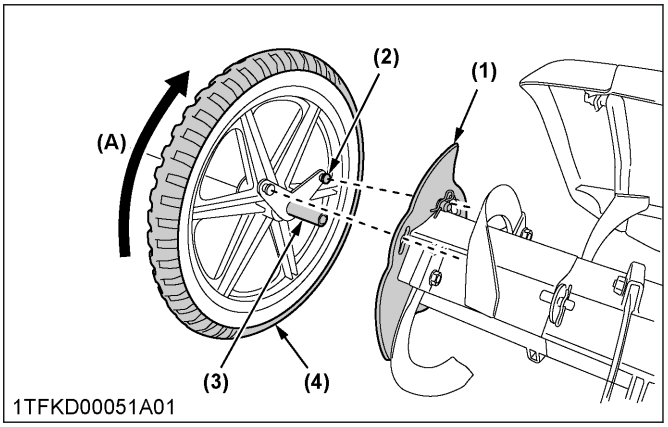
1. 次図のように移動輪の差込軸および 2 か所の突起ピンをプレートの穴に確実に差し込みます。
2. 矢印の方向に回転させてください。固定ピンおよびスナップピンは不要です。

ナタ爪用移動輪



(1) 突起ピン
(2) 移動輪
(3) プレート
(4) 左ロータ
(A) 回転方向

スターロータ用移動輪



(1) マジカルプレート
(2) 突起ピン
(3) 差込軸
(4) 移動輪
(A) 回転方向

管理機の点検・整備のしかた

⚠ 警告

給油および点検整備するときは

- **給排油や点検、調節、清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行ってください。**
- **平たんな場所に機械を安定させて行ってください。これらの作業をおこたると、傷害事故のおそれがあります。**

廃棄物の処理について

⚠ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは、次の事項を守ってください。

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水(AdBlue)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損、損傷、故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書、ラベルに従って、正しく使用してください。

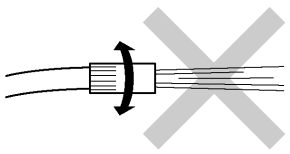
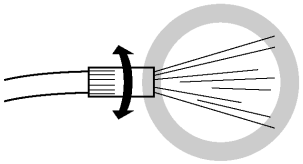
⚠ 注意

洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、電気配線部被覆の損傷や断線により、火災のおそれがあります。

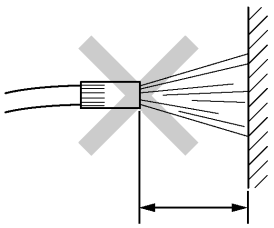
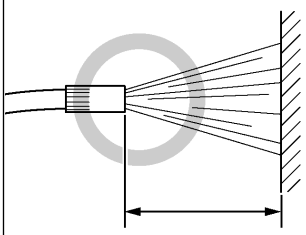
重要：

- **洗車のしかたが不適切な場合、次のような機械の破損、損傷、故障の原因になります。**
  （例）
  - **シール、ラベルの剥がれ**
  - **電子部品、エンジン、トランスミッション室内などへの浸入による故障**
  - **オイルシールなどのゴム類、樹脂類の破損**
  - **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**

直射洗車厳禁

直射	拡散
	
1LMSE00008A01	1LMSE00008B01

近距離洗車厳禁

	
1LMSE00036A01	1LMSE00036B01
2 m 未満	2 m 以上

定期点検箇所一覧表

No.	項目		条件	使用時間	参照ページ
1	主クラッチケーブルの調節	調節	使用開始から	使用初期は 5 時間使用後。 その後は必要に応じて。	40
2	エンジンオイル	交換	交換第 1 回目	20 時間使用後	36
			交換第 2 回目以降	50 時間使用ごと	
3	ミッションオイル	交換	交換第 1 回目	20 時間使用後	37
			交換第 2 回目以降	1 年ごと	
4	エアクリーナ	エレメントの清掃	ホコリの多い場合	毎日	37
		エレメントおよびオイルの交換	使用開始から	50 時間ごと	
5	燃料フィルタ	フィルタの清掃	使用開始から	50 時間使用ごと	38
		タンクの清掃	使用開始から	300 時間使用ごと	
6	点火プラグ	調節／清掃	使用開始から	6 か月に 1 回	39
7	操向クラッチ調節	調節	動作異常時	必要に応じて	41
8	スロットルレバー点検	点検	動作異常時	必要に応じて	41
9	後進リターンケーブル	調整	動作異常時	必要に応じて	41
10	燃料チューブ	交換	傷、亀裂があれば	必要に応じて	38
			使用開始から	2 年ごと 購入先にご相談ください。	
11	ファンカバーの清掃	清掃	ゴミやワラクズの付着があれば	必要に応じて	39

重要：

- **専門的な技術や手入れなどでご不明な点は、購入先にご相談ください。**

管理機の給油一覧表

給油項目	容量	種類
	MM400	
燃料タンク	2.6 L	自動車用レギュラーガソリン
エンジン	0.5 L	純正オイル（ガソリンエンジン用）**スーパーマルチ GD 10W-30**
ミッション	1.3 L	純正オイル（ミッション用）M80B または**スーパー UDT-2**
エアクリーナ	オイルパンの規定量**[OIL LEVEL]**	純正オイル（ガソリンエンジン用）**スーパーマルチ GD 10W-30**

日常点検

⚠ 警告

給油および点検整備するときは、次の注意事項を守ってください。おこたると、傷害事故のおそれがあります。

- **給排油、点検、調節、清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行ってください。**
- **平たんな場所に機械を安定した状態で置いて行ってください。**

1. 前回の異常箇所

前回の作業中に異常を感じた所があれば、使用前に支障が無いか点検してください。

2. 機械の周りを歩いて

- ボルトやナットのゆるみが無いか確認してください。
- 車体各部の変形や損傷が無いか確認してください。
- 油漏れなど異常が無いか確認してください。

3. 燃料の給油

⚠ 警告

- **給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。**
- **火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。**
- **燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。**
- **燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。**
- **給油後、燃料キャップはガソリンが漏れないようしっかり締めてください。**
- **これらの作業をおこたると、爆発や火災のおそれがあります。**

燃料

1. 機体を水平にした状態で燃料を入れてください。
2. 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
3. 燃料キャップを外し、給油口内の赤色ゲージを超えないように補給してください。

重要：

- **水やゴミを混入しないようにしてください。**

4. エンジンオイルの交換

重要：

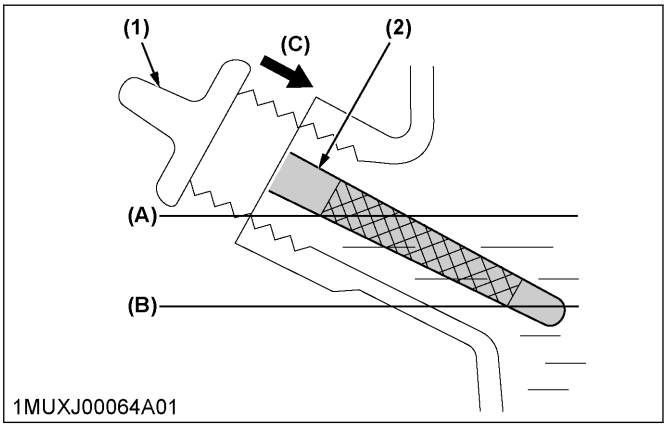
- **粗悪なオイルを使用しますと、エンジンの寿命を急激に縮めますので、購入先で純正オイル スーパーマルチ GD 10W-30 とご指定のうえ、お求めください。（詳細は管理機の給油一覧表（35 ページ）を参照）**
- **排油、検油、給油後はプラグを確実に締めてください。**

給油のしかた

1. エンジンを水平にし油量上限位置まで入れてください。

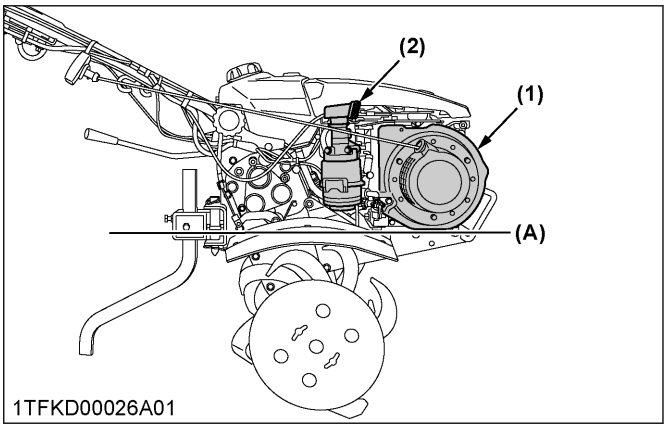
重要：

- **オイル給油後は、必ずオイルゲージを用いて上下限の範囲内にあるか確認してください。**



(1) 給油プラグ
(2) オイルゲージ
(A) オイルが溢れない位置（上限）
(B) ゲージの先端（下限）
(C) ねじ込まずに差し込む

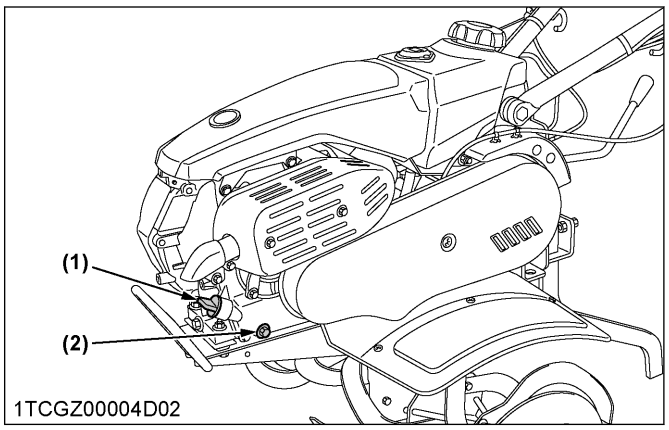
エンジン水平状態



(1) エンジン
(2) エアクリーナ
(A) 水平

排油のしかた

1. エンジンを水平に安定させプラグを外し、排油してください。このとき、必ずオイルパンなどで受けてください。



(1) 給油プラグ
(2) 排油プラグ

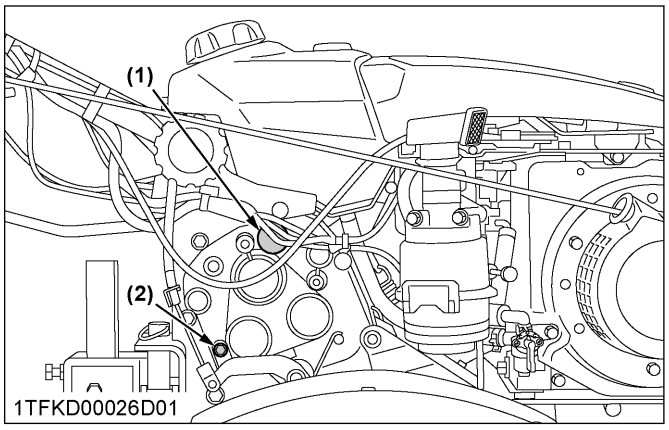
5. ミッションオイルの交換

重要：

- **粗悪なオイルを使用しますと、機械の寿命を急激に縮めますので、購入先で純正オイル M80B、またはスーパー UDT-2 とご指定のうえ、お求めください。（詳細は管理機の給油一覧表（35 ページ）を参照）**
- **排油、検油、給油後はプラグを確実に締めてください。**

給油のしかた

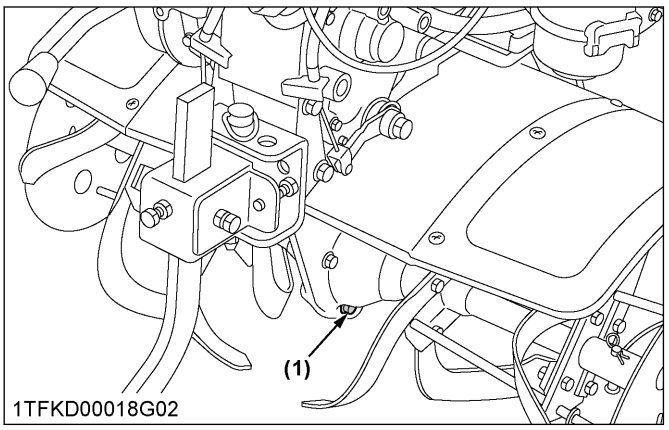
1. エンジンを水平にし検油プラグまで給油してください。



(1) 給油プラグ
(2) 検油プラグ

排油のしかた

1. 排油プラグを外して排油します。このとき、必ずオイルパンなどで受けてください。



(1) 排油プラグ

6. エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換

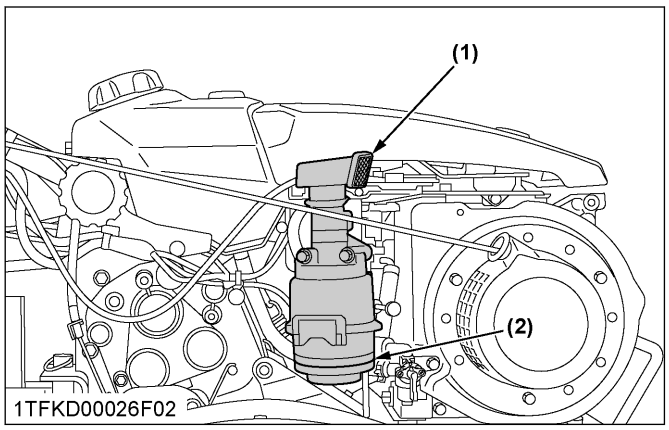
1. 新車（納車）時は、エンジンオイルをオイルパンに入れてください。
2. エレメントは時々灯油で洗い、エンジンオイルを塗布して、よく振り切ってから取り付けてください。
3. オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れてください。
   - 規定量 ： **[OIL LEVEL]**と記載されているところ

重要：

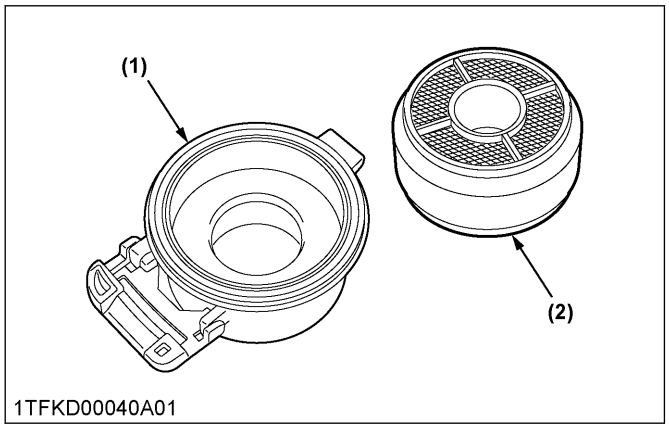
- **エアクリーナを取り外したままエンジンを運転しないでください。ゴミやホコリを吸い込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。**
- **汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。**

エアクリーナの点検		
エレメント	清掃	毎日：ホコリの多い場合
エレメント、オイル	交換	50 時間ごと

- **チリやホコリが多く発生する土入れ作業などで使用する場合は、**
  - **ホコリの少ない方向にエアクリーナ吸入口を向けてください。**
  - **毎日点検してください。**
- **規定量よりエンジンオイルを入れすぎると、エンジン不調の原因となります。**



(1) エアクリーナ
(2) ***[OIL LEVEL]***



(1) オイルパン
(2) エレメント

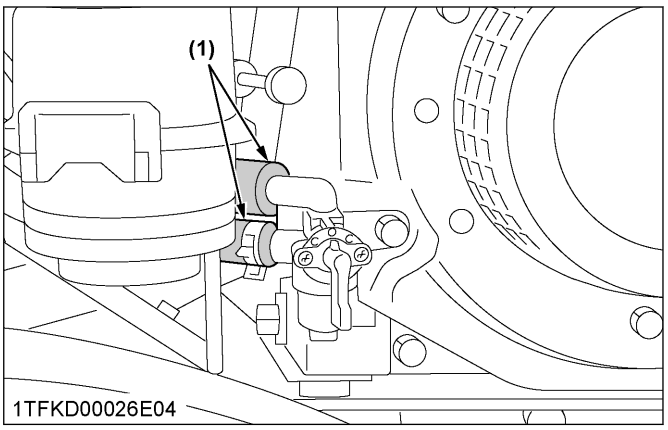
7. 燃料チューブの交換

⚠ 警告

- **燃料チューブは自然劣化したり傷があると、ガソリン漏れして火災の原因となります。**
  作業前に毎回点検し、ヒビや割れが発生したものは、新しい燃料チューブと交換してください。

交換にあたっては、購入先にご相談ください。

交換	2 年間ごと



(1) 燃料チューブ

8. 燃料フィルタとタンクの清掃

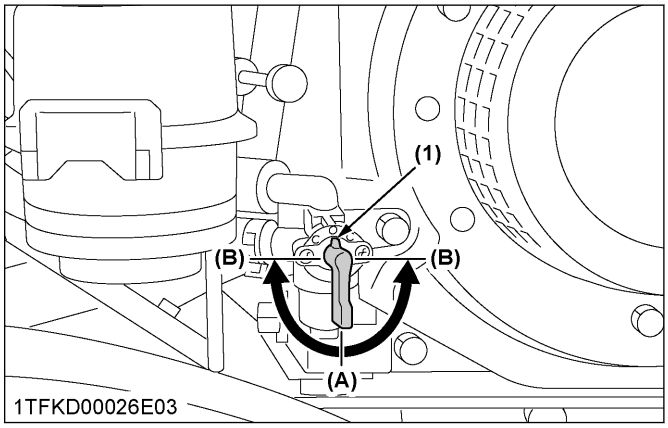
⚠ 警告

- **取付け後、ガソリン漏れがないか確認してください。**

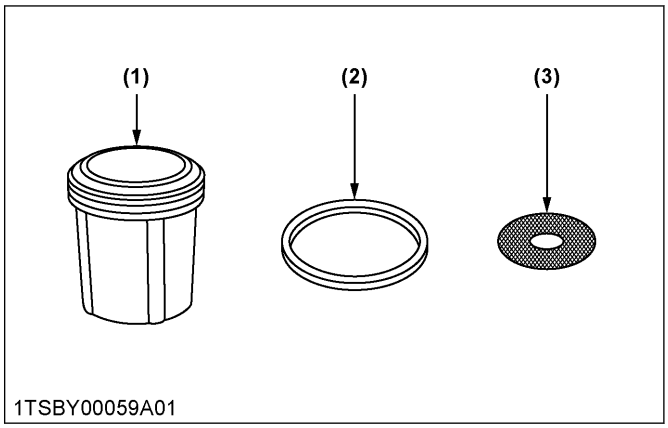
1. 燃料フィルタは、燃料のゴミを取り除きます。取り除かれたゴミは、ポットの底にたまります。
2. 燃料コックレバーを**[C]**（閉）位置にし、フィルタポットを外し、ポットの底にたまっているゴミや水を捨ててください。
3. 燃料タンク内を点検し、底に異物がたまっている場合は、取り除いてください。

50 時間使用ごと	フィルタの清掃
300 時間使用ごと	タンクの清掃

4. フィルタポットを再装着するときは、確実に締め付け、燃料漏れが無いか必ず確認してください。



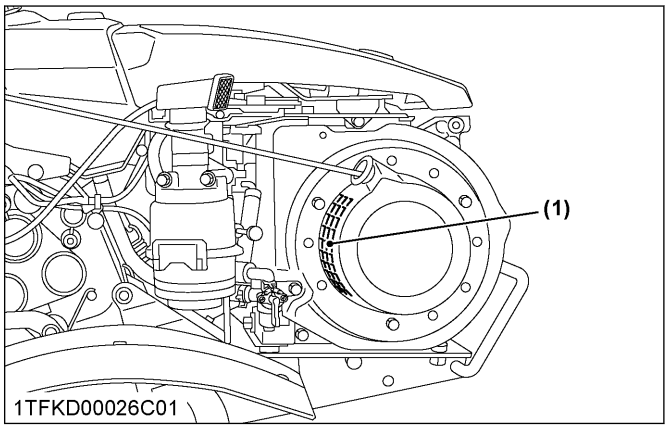
(1) 燃料コックレバー
(A) ***[O]***（開）
(B) ***[C]***（閉）



(1) フィルタポット
(2) パッキン
(3) ネット

9. ファンカバーの清掃

ファンカバーの吸気口は、きれいに清掃します。ここからエンジンの冷却風が吸い込まれますので、ゴミやワラクズなどの付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。

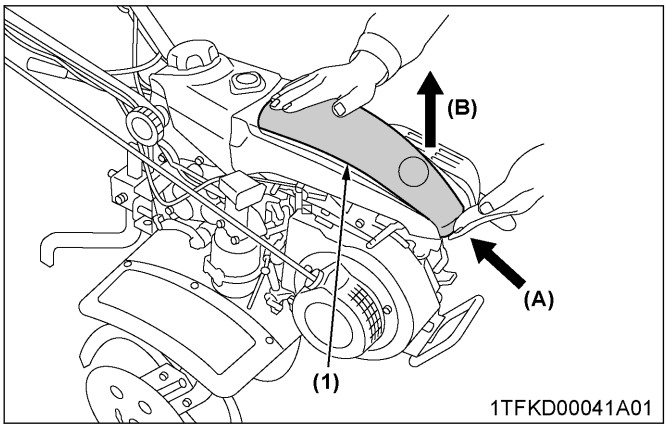


(1) ファンカバーの吸気口

10. 点火プラグの調節、清掃、交換

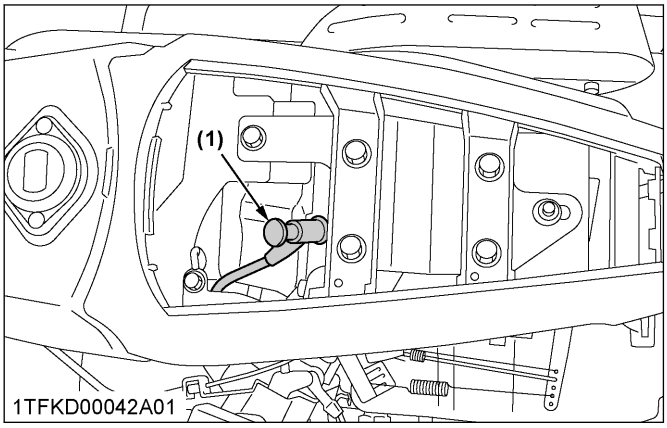
⚠ 警告
- **高温部が冷えてから行ってください。**

1. ボンネット前方に手を掛けて後方に少し押しながら持ち上げるとボンネットが外れます。



(1) ボンネット
(A) 後方に少し押す
(B) 持ち上げる

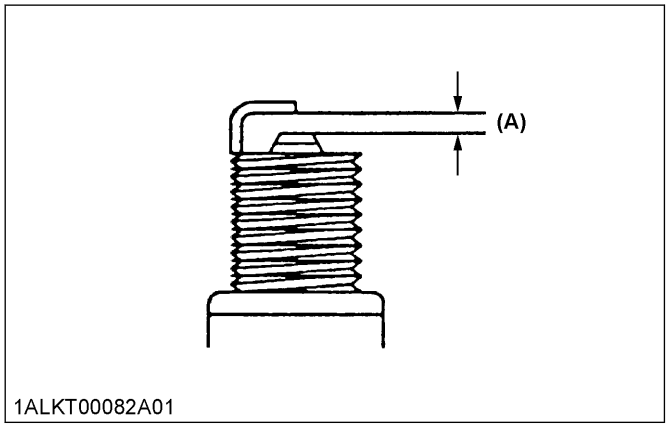
2. プラグ用ボックススパナでプラグを外して、清掃します。



(1) 点火プラグ

3. 電極の隙間が 0.6 mm～0.7 mm になるように調節してください。

4. 点検調節は 6 か月に 1 回行ってください。



(A)　0.6 mm～0.7 mm

使用点火プラグ	(NGK) BPR6HS

5. 作業が終わったら、ボンネットを元の位置に戻してください。

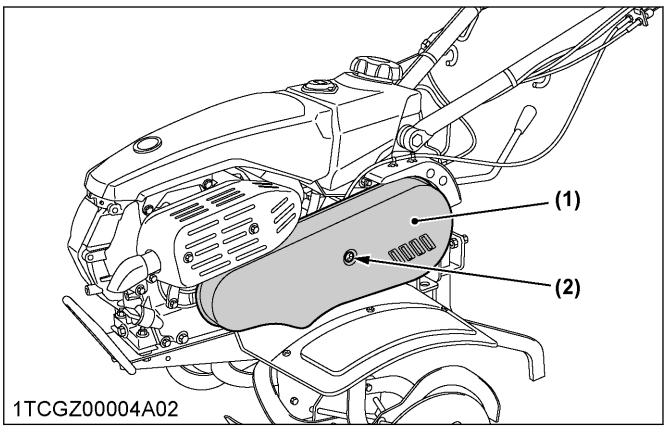
重要：
- **プラグ締付け時は、ネジ山をつぶさないように、始めに手で締め込んでから、ボックススパナで締め付けてください。**
- **調節、清掃してもエンジンが不調なときは、新しいプラグと交換してください。**
- **プラグを外したまま始動操作をしないでください。**

11. 主クラッチケーブルの調節

⚠ 警告
- **ベルト調節を行う場合は、必ずエンジンを停止して行ってください。**
- **調節が終わったら必ずベルトカバーを取り付けてください。巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **主変速レバーを中立にしてください。**
- **調節、確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

主クラッチケーブルによる調節

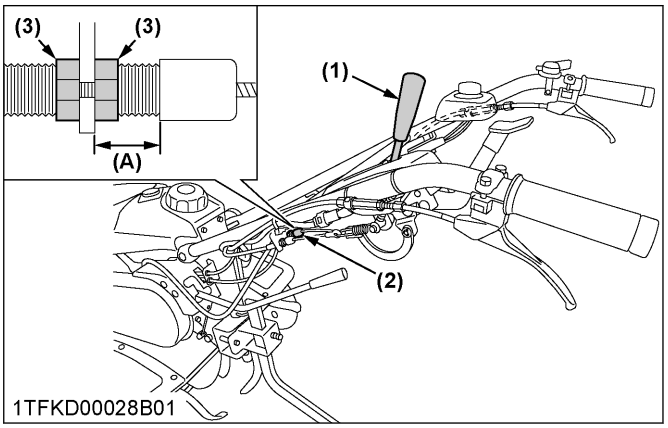
1. ベルトカバーの取付けボルトをゆるめて、ベルトカバーを取り外します。



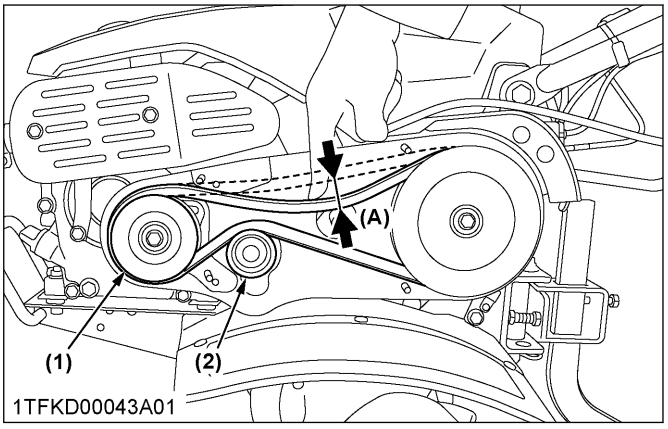
(1)　ベルトカバー
(2)　取付けボルト

2. 主クラッチを入れた状態でベルトの中央部を指で押さえて 10 mm～15 mm たわむ程度にケーブル調節金具でテンションプーリを調節してください。なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、5 時間使用後ケーブルを再調節してください。

ベルトがスリップする場合	調節金具の A 部を短くする
主クラッチレバーが重すぎる場合	調節金具の A 部を長くする



(1)　主クラッチレバー　　*(A)*　*A 部*
(2)　ケーブル調節金具
(3)　ロックナット



(1)　エンジンプーリ　　*(A)*　*10 mm～15 mm*
(2)　テンションプーリ

重要：
- **調節後は、調節金具のロックナットを確実に締め付けてください。**

補足：
- **ケーブルで調整できない場合は、購入先にご相談ください。**

3. ベルトカバーをボルトで取り付けます。

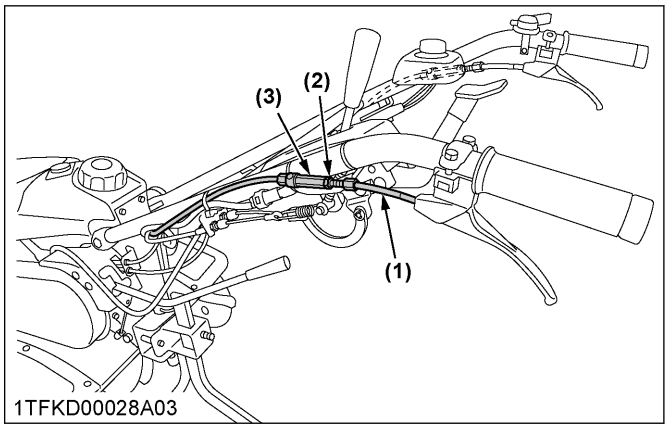
12. 操向クラッチケーブルの調節［S 仕様］

操向クラッチレバーを握っても操向クラッチが切れにくい場合、また操向クラッチレバーを放しても入りにくい場合に行ってください。

1. ワイヤ調節金具のロックナットをゆるめて調節します。

切れにくい場合	調節金具を長くする
戻りにくい場合	調節金具を短くする

2. 調節後はロックナットを確実に締め付けます。



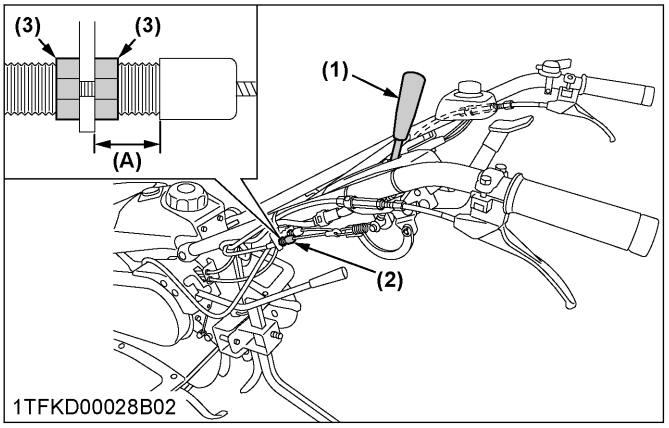
(1) 操向クラッチケーブル
(2) ロックナット
(3) ワイヤ調節金具

13. 後進リターンケーブルの調整

後進時に主クラッチレバーから手を放しても、**[切]**位置に戻らない場合、または前進時に主クラッチレバーが**[入]**位置で固定できない場合に行ってください。

1. ワイヤ調整金具のロックナットをゆるめて調整します。

後進時に主クラッチレバーから手を放しても、**[切]**位置に戻らない場合	調整金具の A 部を短くする
前進時に主クラッチレバーが**[入]**位置で固定できない場合	調整金具の A 部を長くする



(1) 主クラッチレバー
(2) ワイヤ調整金具
(3) ロックナット
(A) A 部

2. 調整後はロックナットを確実に締め付けます。

14. スロットルレバーの点検

スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転が上がらないときや、スロットルレバーが**[高速]**位置のときに主変速レバーを**[後進]**位置にしても、エンジン回転が下がらないときは、購入先にご相談ください。

使用後の手入れ

使用後は、必ずその日に清掃を行い、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部は錆びないように油やグリースおよび防錆剤を適宜塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まりますと、エンジンの焼付きなどの原因になりますので、よく点検および清掃を行ってください。

重要：
- **水洗いのとき、エアクリーナ吸込口から水が入らないようにカバーをしてください。**

1. エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックレバーを閉めてください。

重要：
- **燃料コックレバーを開いたままの状態で、保管したり、前に倒したり、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。**

2. 長期格納時の手入れ

⚠ 警告
- **カバーをかけたり、納屋に格納するときは、火災のおそれがあるため、エンジンが冷えてからにしてください。**

- **燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発・火災のおそれがあります。**

- 主クラッチレバーは“切”位置にして保管してください。
- 1 か月以上使用しないときは、燃料タンク・キャブレタ・フィルタポットの中のガソリンをすべて抜き取ってください。
- オイルを交換し、各部をきれいに掃除してください。
- エアクリーナエレメントを、掃除してください。
- エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引っ張って、圧縮位置（重く手ごたえのある場所）で止めてください。
- カバーをかけ、湿気や草・ワラおよびホコリのない場所に置いてください。
- 錆を防ぐため、爪軸を外し、耕うん軸と爪軸の内側を清掃し、油またはグリースを塗布してください。

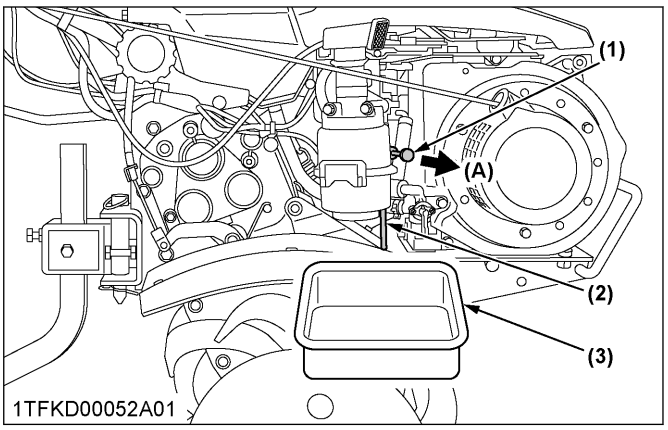
重要：
- **ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いので錆びやすくなります。**

3. 燃料の抜取り

⚠ 警告
- **燃料を抜き取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。**
- **火気厳禁。くわえ煙草での作業は絶対にしないでください。**
- **燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。**

1 か月以上使用しないとき、燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜き取り、キャブレタ内はクイックドレンを引いてドレンチューブから抜き取り、フィルタポットを外しフィルタ内の燃料を全部抜き取ります。その際、ガソリンは容器で受けて抜き取ってください。

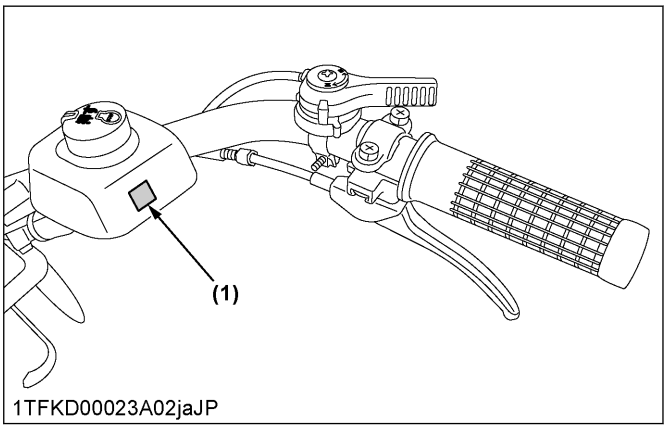
重要：
- **燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレタ内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。**



(1) クイックドレン　　*(A)* 引く
(2) ドレンチューブ
(3) 容器

4. QR コードについて

QR コードを通じてお客様に機械の取扱説明書の閲覧ができるサービスを提供しています。
お持ちのスマートフォンや携帯電話などの端末で QR コードを読み取ってアクセスしてください。なお、QR コードは本書の表紙および、本機（次図）にあります。



(1) *QR* コード

補足：
- **本機 QR コードラベルの破損や汚れがひどいため、端末で QR コードを読み取れないときは、本書の表紙の QR コードを読み取ってください。**

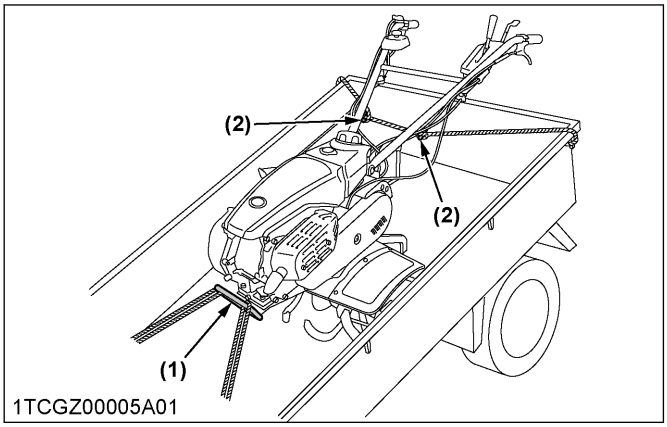
管理機を運搬するとき

⚠ 警告
- **積込みや積降ろしは、平たんで交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。**
- **アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐えるもので、トラックの荷台の高さ 1 に対しアユミ板の長さ 4 以上のものを使用し、確実に固定してください。**
- **足元に注意し、車速は最低速で上りは[前進 1 速]、下りは[後進]で行ってください。**
- **途中で主クラッチや操向クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下や転倒のおそれがあります。**
- **トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさまれるおそれがあります。**
- **トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を、積込みや積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、別に用意しておいた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。**
- **ロータを装着しているときは、移動輪、または突起の小さい車輪と交換して行ってください。ロータのみでの、アユミ板の上り・下りは危険です。絶対にしないでください。**

自動車（トラック）への積込み、運搬

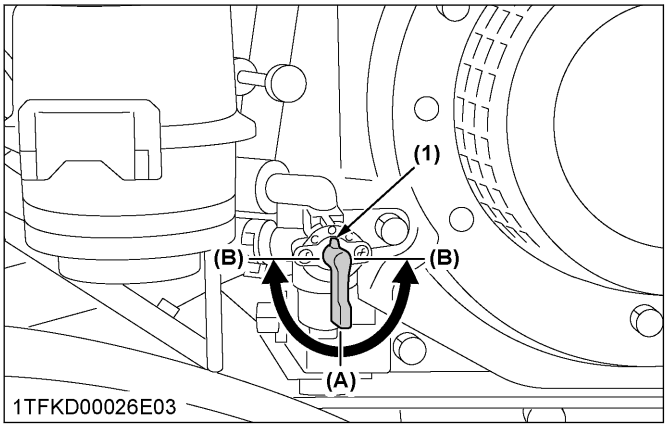
重要 :
- **ロープを掛けるとき、樹脂レバーや樹脂カバー、小物部品にロープが触れないように気をつけ、ケーブルやハーネスをしばらないでください。**
  破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
- **エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ホコリが入り、エアクリーナ性能が低下します。**
- **燃料コックレバーを[O]（開）のまま運搬すると、キャブレタ内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難となります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。**

1. トラックを平たんな場所に止め、駐車ブレーキを掛けます。
2. 車速は最低速で、上りは**[前進 1 速]**で、下りは、**[後進]**にします。
3. アユミ板を荷台に確実に固定します。
4. ロータを装着しているときは、移動輪、または突起の小さい車輪と交換します。
5. 機体は荷台にロープで確実に固定します。
6. 機体にロープを掛けるときは、前部プロテクタ・ロープ掛け用フックの 2 か所を固定します。



(1) 前部プロテクタ
(2) ロープ掛け用フック

7. 燃料コックレバーを**[C]**（閉）にします。



(1) 燃料コックレバー
(A) ***[O]***（開）
(B) ***[C]***（閉）

8. 雨天時には、エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせます。

付表

主要諸元

販売型式名			MM400	MM400S	MM400SJ
機体寸法	全長	(mm)	1385		
	全幅	(mm)	595		
	全高	(mm)	1000		985
質量		(kg)	44	46	47
エンジン	型式名		GB131		
	種類		空冷 4 サイクル傾斜型ガソリンエンジン（OHV）		
	総排気量	L (cc)	0.126 (126)		
	定格出力/定格回転数	kW/rpm (PS/rpm)	2.3/1650 (3.1/1650)		
	最大出力	(kW (PS))	3.0 (4.2)		
	使用燃料		自動車用レギュラーガソリン		
	燃料タンク容量	(L)	2.6		
	始動方式		リコイルスタータ式		
主クラッチ方式			ベルトテンション式		
操向クラッチ方式			–	ボール式	
変速段数	主変速	前進	2 段		
		後進	1 段		
車軸形状		(mm)	六角（対辺 23）		
安全性検査合格番号			申請中		

車軸回転数一覧表

変速		車軸回転数*1（rpm）		
		MM400	MM400S	MM400SJ
前進	1	71		61
	2	106		119
後進	1	26		23

*1　定格回転時

補足：

- **この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。**

標準付属部品

品名	数量/台	備考
プラグボックス	1	
車軸ピン	2	
スナップピン	2	
ホイルチューブ	2	J 仕様のみ
取扱説明書	1	
ガソリンメンテナンス要領書	1	
組立要領書	1	
保証書	1	

主な消耗部品一覧表

本機関連

品名	品番	個数	適用機種	備考
V ベルト（SB-37）	KE41022BD	1	全機種	
オイルシール	KF90308AA160	2		
ケーブル（バックケンセイ）	P051Y08X250	1		
ケーブル（主クラッチ）	KA01069AA003	1		
ケーブル，ユニット（スロットル）	KF31018AA003	1		
ケーブル（サイドクラッチ）	KS20134CD007	2	S 仕様のみ	

エンジン関連

品名	品番	適用機種	数量	備考
スパークプラグ	KE41022BD	全機種共通	1	
フューエルホース*1	KF90308AA160		1	フューエルコックからキャブレタ
フューエルチューブ	P051Y08X250		1	フューエルタンクからフューエルコック
エレメント（エアクリーナ）	KA01069AA003		1	
フィルタ（フューエル）	KF31018AA003		1	
スタータロープ	KS20134CD007		1	リコイル用
パッキン	KF31010AA004		1	燃料コック

*1　クリップも同時交換してください。（品番：KU70034AA　2 個）

トラブルと処置

エンジンが始動しないとき

原因	処置
• 始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。（詳細は運転のしかた（24 ページ）を参照）
• タンクにガソリンを入れたまま 1 か月以上保管しガソリンが劣化した。	タンクやキャブレタ内の劣化したガソリンを排出し、新しいガソリンを入れる。
• フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外してフィルタエレメントを清掃する。また新しい物と交換する。 キャブレタ内のガソリンも排出する。
• チョークを引いた（**[始動]**位置）状態でリコイルを何回も引きすぎガソリンを吸いすぎた。	チョークを戻し（**[運転]**位置）リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
• エンジン停止後、燃料コックレバーを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したためキャブレタがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら、新しいエンジンオイルと交換する。
• エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。 または新しい物と交換する。
• 点火プラグの火花が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または、新しい物と交換する。

エンジン回転が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原因	処置
• エンジンが暖まってもチョークを引いた（**[始動]**位置）まま運転している。	チョークを戻す（**[運転]**位置）。
• フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外して清掃する。 キャブレタ内のガソリンも排出する。
• エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して清掃する。
• スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	調節にあたっては、購入先にご相談ください。

ハンドルのガタが多い

原因	処置
• ハンドル上下のガタが多い。	ハンドル高さ調節ノブを締め直す。

エンジンが振れる、異音が発生する

原因	処置
• エンジン取付けボルトがゆるんでいる。	取付けボルトを締め付ける。

補足：

- **処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。**

索引

アルファベット

QR コードについて....42

あ

安全ラベル
　手入れ....11
　貼付け位置....10
運転前の日常点検....24
エアクリーナ....20
エアクリーナエレメント
　オイル交換....37
　清掃....37
エンジン
　始動のしかた....24
　停止のしかた....25
エンジンオイル
　交換....36
エンジン始動不良を防ぐために....41
延長フェンダ....18

か

管理機
　外観....14
　給油一覧表....35
　自動車（トラック）での運搬....43
　自動車（トラック）への積込み....43
　主要諸元....44
　使用前の準備....24
　発進のしかた....26
機体が深くもぐって前に進まないとき....28
クイックドレン....17
耕うん作業手順....28
後進リターンケーブル
　調整....41
ご相談窓口....13

さ

作業前の準備....28
始動のしかた
　リコイルスタータ....24
主クラッチケーブル
　調節....40
主クラッチレバー....15
主変速レバー....16
使用後の手入れ....41
上手な作業のしかた....28
消耗部品一覧表....45
スターロータ用移動輪（別売 OP）....19
　取付けかた....32
スターロータ（別売 OP）....19
　セットのしかた....30
スロットルレバー....16
　点検....41
旋回のしかた....28
洗車時の注意....33
操向クラッチケーブル［S 仕様］
　調節....41
操向クラッチレバー［S 仕様］....16

た

注意事項
　運転してはいけない人....3
　運搬するとき....6
　エンジンを回すとき....4
　降すとき....6
　回転している爪に注意....7
　格納するとき....8
　カバー類は必ずつける....8
　機械から離れるとき....7
　機械の改造禁止....8
　給油や注油するとき（火気厳禁）....4
　傾斜地やあぜの移動をするとき....5
　耕うん作業するとき....6
　後進するとき....5
　坂道を移動するとき....5
　作業機の着脱について....9
　作業に適した服装....3
　周囲への注意....3
　掃除をするとき....7
　正しい運転方法....3
　他人に貸すときの注意....3
　積込むとき....6
　点検、整備、アタッチメント脱着時の注意....8
　点検、整備時の服装と保護具....7
　排ガスに注意....4
　廃棄物の処理について....8
　ハウス、車庫などでの移動....5
　発進するとき....4
　ほ場がかたいとき....7
　夜間作業の禁止について....9
長期格納時の手入れ....41
調子よく作業するために....21
チョークレバー....17
定期点検箇所一覧表....34
抵抗棒
　組付けかた［C 仕様、別売 OP（スターロータ）］30
　組付けかた［C 仕様］....29
抵抗棒［C 仕様、別売 OP（スターロータ）］....19
点火プラグ
　交換....39
　清掃....39
　調節....39
トラブルと処置....46

な

ナタ爪用移動輪（別売 OP）.....19
　取付けかた.....32
ナタ爪ロータ［C 仕様］.....19
　セットのしかた.....31
ならし運転（最初の 10 時間まで）.....24
日常点検
　安全に作業するための点検.....22
　機械の周りを歩いて.....36
　前回の異常箇所.....36
認定番号.....13
燃料
　抜取り.....42
燃料キャップ.....18
燃料コックレバー.....17
燃料タンク.....18
燃料チューブ
　交換.....38
燃料の給油.....36
燃料フィルタとタンク
　清掃.....38

は

廃棄物
　処理.....33
ハンドル
　高さの調節.....29
ハンドル高さ調節ノブ.....17
標準付属部品.....45
ファンカバー
　清掃.....39
フィンガーレバー.....15
補修用部品
　供給年限.....13

ま

マジカルプレート
　装着方法.....31
マフラ.....18
ミッションオイル
　交換.....37
メインスイッチ.....15

や

ユニバーサルヒッチ.....19
　組付けかた.....29

ら

リコイルスタータ.....17
ロープ掛け用フック.....20